

濟生

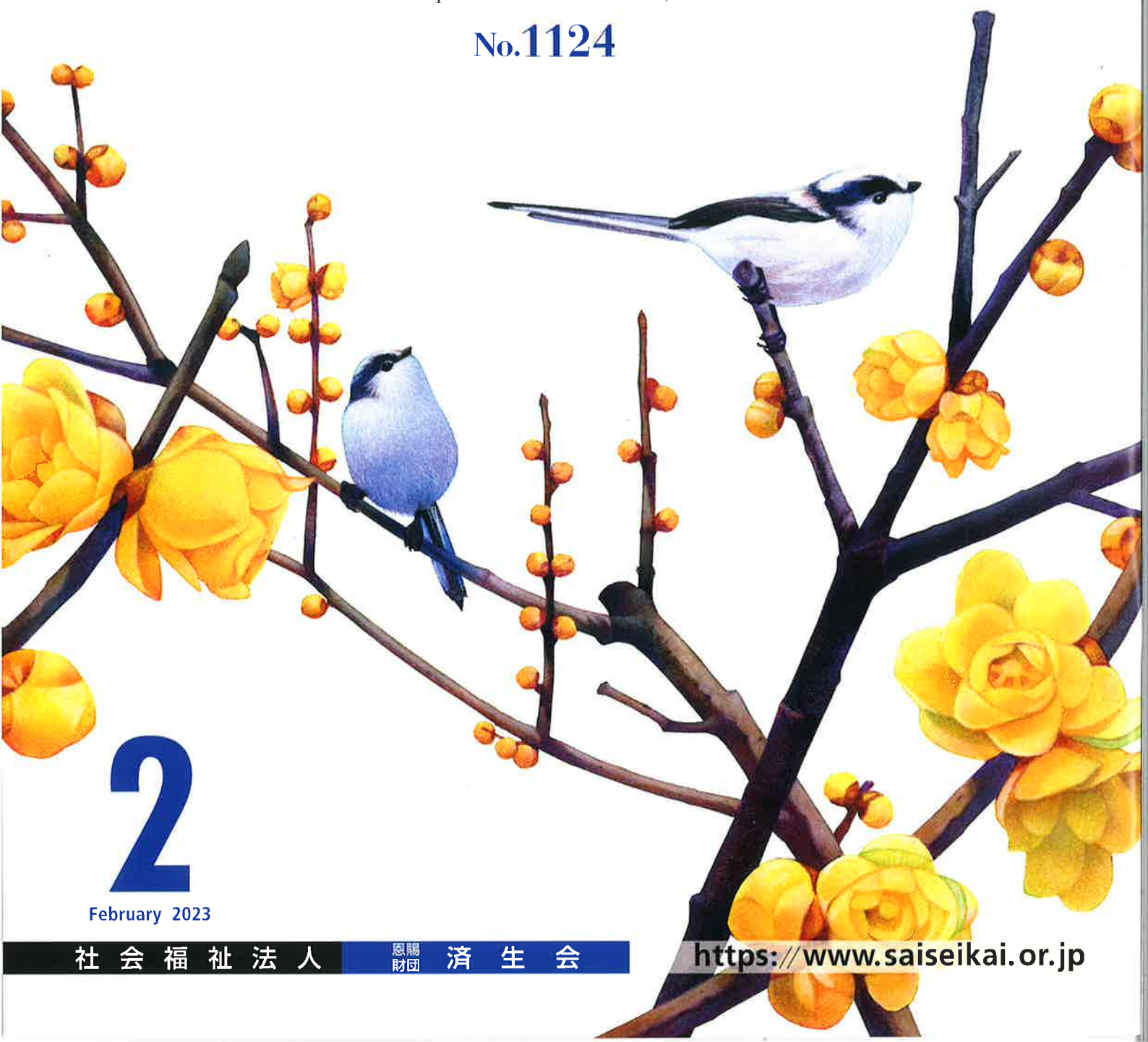
SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1124

「濟生会交差点」

地域初の
救命救急センター



2

February 2023

社会福祉法人

恩賜
財団

濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



国連の日本政府への勧告

国家公務員在職中に国際会議に参加する機会が相当あった。どんな国際会議でも緊張する。30歳のころ、W H O（世界保健機関）総会が本部のあるジュネーブで開催され、初めて出席した。事前に議題は決められているので、政府内での議論を経て作成された対応要領に従って対処していく。しかし突発的に緊急動議が提出されることがあるので、常に緊張する。その時も中東の国際紛争に絡んだ緊急

動議が出され、冷や汗をかいた。この時は1週間程度の短いジュネーブ滞在だったが、国際会議の雰囲気は分り、貴重な経験になった。ジュネーブにはW H OのほかILO（国際労働機関）、I O M（国際移住機関）など多数の国際機関のビルがまぶしいばかりに立ち並ぶ。戦前、国際連盟が設立されたのもジュネーブだった。国際連盟の後継である国際連合は、世界大戦を防止できなかった連盟

時代の反省に立って戦後設立された。小学校の社会科の授業で先生は、情熱を持って国際連合の重要性を語った。「立派な組織なのだ」と幼心に印象づけられた。ロシアのウクライナ侵略などに接すると、国際連合の無力さを感じさせられる。しかし、私はいまでも国際連合をはじめ国際機関は重要だと思っている。信じ続けたい気持ちである。天然痘の撲滅をはじめ世界の保健水準の向上にW H Oが果たした役割は、誰も否定しない。ILOが採択したILO条約は、労働者の地位向上に、また国際連合が採択した人権規約は、人権向上にそれぞれ大きな貢献をした。もしこれらがなかったら、今日の日本の取り組みが格段に遅れたことは、私の国家公務員時代の経験から断言できる。日本政府は大変まじめに国際条約に向き合っている。途上国などでは、国内体制が国際条約が求める基準を満たすことが困難ではと思われる場合でも、批准している事例が見られる。これに対して日本では、霞が関で関係各省がどんな指摘にも耐えられるよう厳密に検証を行なう。

私が難民条約やILO条約の批准で徹夜の作業に従事した時もそうだった。批准するために制度改正を行なうことが多々ある。戦後の社会保障制度は、これによって発展してきたと言える。社会保障関係者にとって「外圧」は大きな力になった。

☆ ☆

昨年10月、国連の障害者権利委員会は、日本の障害者権利条約の取り組み状況を審査した結果、日本政府に対して勧告（総括意見）を出した。懸念事項が93項目、勧告数が92項目に及ぶ。この内容を読んで、基本的な哲学は、私が従前から本欄で繰り返し主張し、取り組んできたことと完全に一致している。人権とソーシャルインクルージョンの徹底である。私にとって大きな自信になった。

すでにこの勧告について「これは無理だ。反対だ」という声が上がっている。しかし、これは障害者だけでなく、すべての人の幸せの向上につながる道だ。これが世界の潮流である。国、自治体、社会福祉事業者等関係者は、勧告の完全実施に向けて努力を惜しんではならない。

昨日、 今日、 明日、三井住友銀行と。

昨日とは違う今日をはじめるために。
今日を未来へとつなげていくために。
私たちは、お一人おひとりの毎日を、
一つひとつの変化を、丁寧に見つめていきたい。
いつどんなときも、あなたにいちばん近い銀行でありたい。
これからもずっと、あなたの人生のパートナーであるために。



三井住友銀行



2月のたよりが聞こえる

蠟梅にエナガ

数

年前からシマエナガがブームになっている。まん丸の真つ

白い顔に、くりくり眼とおちよほ口。かわいらしさ3点セット完備のうえ、

小さく動きもちよこま

か。人気が出るのも納得で、目と口を描いた

マシユマロも登場した。

シマエナガは北海道

にすむエナガの仲間。

真つ白い顔は冬毛で、

夏毛になると目の横が

黒く覆われて、本州以

南のエナガと区別がつ

きにくくなる。

エナガの体長は14セ

ンチ前後。日本にすむ

鳥の仲間では、キタイ

タダキに次いで2番目

に小さい。14センチな

らそこそこ大きいよう

にも思えるが、半分は

しっぽの長さ。十分、

小さいので、草の実を

食べに行つてオオカマ

キリにつかまったりも

する。

名前の由来は、柄杓

家庭ではお目にかからなくなつてしまつたが、神社で手を浄めるときに水をすくう、あれ。その柄が長いように、しっぽが長いというわけだ。

尾が長いことから、エナガではな

くオナガにすればいいではないか。

そう思うのがフツーだが、実はオナ

ガという鳥が別にいる。体長40セン

チ弱。鳩より一回り大きい感じで、

こちらもほぼ半分はしっぽ。

この季節、梅に先立つて咲くのが

蠟梅だ。花は淡いカスタードクリ

ム色。芳香以上に特徴的なのが、蠟

でコーティングしたような花の質感

で、その名の由来ともなつている。

梅ともども7世紀ごろ中国から渡来

したとされるものの、植物分類学的

にはバラ科のウメの仲間ではなくロ

ウバイ科。もう一つ、梅に似た花を

つけるのに黄梅があるが、こちらは

半つ理性でモクセイの仲間。17世紀

になつて中国から伝わつてきた。

蠟梅は花の乏しい時季の貴重な木

で、いろいろな鳥たちの「頼り木」に

なつている。

表紙のことば

「春はもうすぐですよ」

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

寒さが厳しくなると咲く、冬の冷たい空気にも澄んだ空にも少し溶けてしまったような半透明の黄色い花。ロウバイは控えめで静かに微笑んでいるような優しい印象です。日差しを集めたような黄

色い花を枝いっぱいにつけて、とても小さな声で「春はもうすぐですよ」と教えてくれているような気がします。これから巣作りに入るエナガにも何かメッセージが届いたでしょうか。



済生

SAISEI

CONTENTS

FEBRUARY, 2023

NEWSな済生人

地域の医療を守り続ける
〈熊本〉みすみ病院 院長

06

庄野弘幸さん

済生会交差点

《地域初の救命救急センター》80万住民の命を守る最後の砦。県内初の常駐型救急ワークステーションも設置／《国際規格の検査品質》ISO基準の安心・安全・高品質な検査。加算取得で病院経営にも貢献／《活躍の場は地域にある》スタッフ7人がアウトリーチで地域を奔走、誰も取り残さない／《介護福祉士を目指す学校》働きながら国家試験を目指せる。講師も一緒に成長できる

10

巻頭コラム 済生会の不易流行論

国連の日本政府への勧告 理事長 炭谷 茂

03

2月のたよりが聞こえる—— 蠟梅にエナガ

表紙のことば 久保田真由美

05

ソーシャルインクルージョン

18

日本財団助成事業完了のお知らせ

21

日本損害保険協会補助事業完了のお知らせ

23

この人 阿川佐和子

24

口福にっぽん 吉井省一

26

だれでもかんたん てづくりおもちゃ

いまいみさ

28

TOPICS

30

大雑報

65

題字協力：石飛博光

アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

訪問診療・リハビリの積極的な展開 いつでも住民のために尽くす医療の提供を

NEWSな済生人 Interview

済生会は2023年度からの10年間の活動計画で「在宅医療へも積極的に関与する」という指針を示しました。地域の在宅医療・介護・訪問看護ステーションとの連携を強化し、在宅療養患者の緊急入院の受け入れ体制を整備するなどの役割を果たしていくというものです。少子高齢化・人口減少・人材確保など課題が山積する中で地域医療に奮闘する、みすみ病院の庄野弘幸院長に現状や展望を聞きました。

(みすみ病院 済生記者 船橋麻紀)

船橋 当院は今年3月で開院20年です。この間、在宅医療にはどう取り組んできましたか。
庄野 この地域では特に訪問リハビリが手薄で、開院早々に着手しました。その後訪問看護も展開しましたが、地域の事業所との兼ね合いもあって本格的な活動は控え、16年からは通所リハビリも開始しています。現在の利用者数は訪問リハビリが約60人、通所リハビリが約90人です。

船橋 リハビリの中身は？
庄野 当院の通所リハビリは、利用者さん自身がその日のメニューを決めて取り組めます。昼食も利用者さんが選び、入浴も自宅の風呂に入るトレーニングに位置付けています。これを1年続け、ある程度自立すれば修了にして、新たな利用者さんを受け入れます。こうしたやり方で、みなさんが住み慣れた地域でいきいきと暮らすサポートをしていければと考えています。

地域の医療を守り続ける

〈熊本〉みすみ病院 院長

庄野弘幸さん



みすみ病院の屋上で。左は聞き手の船橋さん

船橋 医師の関わりはいかがでしょうか。
庄野 18年には訪問診療を開始しました。もともと悪性腫瘍の終末期の患者さんに対

象に、訪問診療と在宅での看取りを行っていた中で、脳梗塞後の後遺症や心不全などで通院が困難な患者さん宅にも訪問す

るようになったのです。現在、訪問診療の患者さんは約20人。90代以上が半数を占め、100歳を超える長寿の患者さんが2人います。

船橋 日本の農村部では人口減少と高齢化が問題になっています。
庄野 当院は天草諸島への玄関口となる宇城市三角町にありますが、予想を上回るスピードで少子高齢化や人口減少が進んでいます。当院では、そうした状況の変化に応じて一般病床を回復期リハビリ病棟や地域包括ケア病棟へ転換するなど、ニーズに応じて機能・役割を少しずつ変えています。

船橋 高齢化率が高まれば、訪問看護や訪問介護の需要が高くなりますね。
庄野 そのとおりですが、そうした地域の多くは生産年齢人口も減少していて、看護や介護に従事する人材確保も難しい。実際、当院では看護師や看護助手が足りず、特に夜勤のマンパワー確保が喫緊の課題となっています。病院だけでなく、訪問看護ステ



道幅が狭いところは徒歩で庄野院長と看護師が患者宅に向く訪問診療



オンライン診療は診療の効率化や通院負担の軽減が図られる

※新型コロナウイルス感染防止のため、当分の間、インタビューは当該施設の済生記者が務めます。また、写真撮影時のみマスクを外しています

ICTと限られた人材の有効活用で、地域医療の課題解決に奮闘



急性期から回復期、在宅支援まで幅広いキャリア形成が実現できる



住み慣れた土地で元気に暮らすための出前・健康講座



新型コロナの診療では病院全体で困難に立ち向かっている

「シオンや介護施設も人材不足が深刻です。庄野院長自ら訪問診療や巡回診療に出かけていく姿に、状況の厳しさが現れています。」

庄野 当院から車で30分ほどかかる宇土半島の松合地区では唯一あった診療所が高齢化した医師のリタイアで2019年に閉院、無医地区になりました。住民の不安が募る中「これはなんとかせんといかん」と、その診療所の設備を使った巡回診療を2020年から始めたのですが、安心したのも束の間、担当医師が退職してしまいました。現在は私が月1巡回診療に出かけ、高血圧や糖尿病などの慢性疾患の患者さん4人を診ています。巡回診療は、月3回ほど行く訪問診療に合わせ実施していますが、午前中に出発し、すべての診療を終えて病院に戻るころには日が暮れてしまいます。

地域医療の担い手として 10代の若者に期待

船橋 昨年3月にはオンライン診療も導入しました。

持していくのかを考えると、地域医療の担い手の育成も重要ですね。
庄野 それは大きな問題です。高齢化は患者さんだけの課題ではなく、医師の高齢化にも備えた地域医療体制を模索していかなければなりません。プライマリケアの重要性、総合診療医や家庭医の魅力や現場から若い医師や医学生に伝えていくことが重要でしょう。

船橋 みすみ病院での取り組みは？
庄野 当院には、熊本病院と横浜市南部病院から研修医が一人ずつ派遣されていて、地域医療に携わっており、熊本大学からも医学生を受け入れてあげています。彼らが地域医療の魅力を感じていくのがいいなと思っています。

船橋 といいますと？
庄野 専門に分化した今の医療制度の下では、若い医師が都市部以外でプライマリケア医を目指すという姿はなかなか描きにくい……。当院で腰を据えて地域医療に関わってもらおうなら、第一線から退こうとしている経験豊富な医師をリクルートするのが現実的です。

船橋 地域医療の担い手として、地元の小中高生が将来当院で働いてくれるようになる

庄野 スマートフォンやパソコンなどを使い慣れていない患者さんには看護師や事務スタッフがサポートしてモニター越しに遠隔診療を受けてもらっています。医師にとっては通常の外来診療の合間に、オンラインで遠隔地にいる患者さんを診ることができるので、効率の良い診療が可能になりました。

船橋 さらにAI問診もスタートしています。
庄野 来院前に、当院のホームページ上で問診できるので、若い患者さんを中心に利用が広がっています。図らずも、新型コロナウイルスの流行で病院へのアクセスが多様化したわけですが、高齢の患者さんや孫に手伝ってもらいながらAI問診に臨んでいます。ICTを活用すれば最小限のマンパワーで効率のよい診療が可能になります。ですが、こうした工夫にも限界があります。



船橋 打開策はないのでしょうか。
庄野 医師だけでなく、病院のスタッフ全員で診療に当たる「多職種協働」が鍵となります。さらに当院は、地域の医療機関とも協力し合って、医師をはじめさまざまな

職種を派遣してもらった協力体制が地域ぐるみでできないものか模索しています。当院にはある時は薬局の事務職、またある時は栄養管理室のスタッフ、さらにはレストランの調理師としてマルチプレイヤーの活躍してもらっている職員もいます。これも一つの方法かもしれません。

船橋 オンライン診療は広がっていくでしょうか。
庄野 オンライン診療をしっかりと機能させるためには人材も必要です。たとえば、患者さんが急変した場合、速やかに入院してもらおうには訪問看護師の介入が必要です。そのため当院では、来年度に訪問看護ステーションの立ち上げを予定しています。

船橋 人手不足の障壁はどう解決を？
庄野 当院には子育て中の看護師が多く、時短勤務を希望する人が増えているので、オンライン診療の基盤を整備し時短の看護師を上手に配置することで、子育て中の看護師が無理なく働くことも可能です。ただし、見守りロボットなどの先端技術をいくら駆使しても、看護師の配置基準といった医療の根幹の制度が変わらなければ根本的な課題解決にはつながらず、宝の持ち腐れになりかねません。

船橋 人口減少地域の医療をどうやって維持していくか。
庄野 できるだけ生活圏を小さくして、生活に必要な機能や施設を集約するコンパクトシティが、この地域にも必要です。点在する患者さん宅を回る訪問診療などはどうしても手間暇がかかりますが、患者さんの住居と病院の距離が近くなれば双方にメリットが生まれる。まちの在り様を変える中では、たとえば社会問題になっている空き家を、訪問看護ステーションなど新たな医療資源に再生するといった一挙両得の方策も考えられます。済生会の活動方針にもあるように、病院がコミュニティの中心になるようなまちづくりを目指し、できることを一つずつ取り組んでいきたいですね。

るといいんですが。
庄野 そのために、TKUテレビ熊本の情報番組「若っ人ランド」のキャストを呼んで当院主催の「健康フェスタ」を盛り上げるなど地域の活性化を図っています。一人でも多くの若者が医療に関心を持ち、将来は当院と一緒に地域医療を支えてくれることを望んでいます。

病院中心のまちづくりを目指す

船橋 コロナ禍で休止中の「出前・健康講座」の再開を望む声も聞こえてきます。
庄野 「出前・健康講座」は開院以来継続してきた事業で、2017年までに650回を重ね、延べ2万2500人が聴講しています。医師・看護師・薬剤師・医療技術職・ソーシャルワーカーなどの多職種が講師となり、

地域の健康維持・増進に役立つ情報を伝えてきました。



【取材を終えて】
環境の変化に応じて、この20年で当院の在り方も徐々に変化してきました。しかし、開院当初から地域のために尽力してこられた庄野院長の取材を通して、地域貢献とい

う理念は今も変わらずあり続けているというところをあらためて実感しました。

(船橋麻紀)



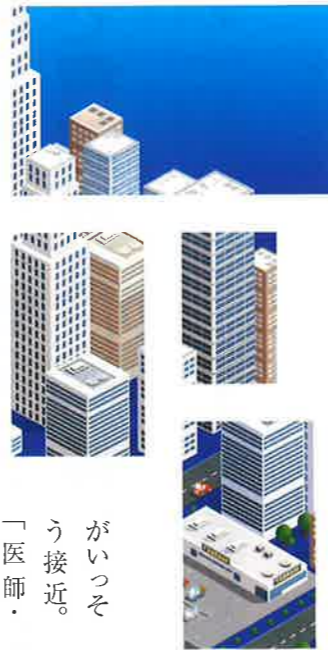
三次救急指定を取得し、より広域から患者が搬送される救命救急センター

形成してきた中で、日常的に顔の見える関係になり互いの距離



埼玉東部消防組合消防局・鈴木課長

目的で、救命率向上にもつながる消防の新形態です。「24時間365日の常駐体制で、季節や時間帯で特有な症例なども幅広く学べ、救急隊員のレベルアップを図る貴重な場として期待が大きい」と鈴木課長は言います。病院も、救急隊員とのコミュニケーションを深められるのが利点です。救急隊員とは以前から、救急医療や災害医療について議論を交わしコンセンサスを



救命救急センター内の常駐型

新たな三次救急を目指す

「速水センター長は述べ、救急隊員の指導・教育に熱心です。実際にレベルアップします」と速水センター長は述べ、救急隊員



病院・消防・救急隊の関係性を高めるディスカッション

救急ワークステーションには、消防署と同じ指令システムがあり、常駐する救急隊員3人と研修隊員1〜2人らが搬送患者さんの初療に参加します。「多数の隊員が研修できる環境は、地

加須病院の医療スタッフと救急隊が協働する救命救急センター



80万住民の命を守る最後の砦 県内初の常駐型救急ワークステーションも設置

地域初の救命救急センター (埼玉) 加須病院

は整形外科のスペシャリティーであり、外傷や熱傷などにも対応



救命救急センター・速水センター長

埼玉東部消防組合消防局の鈴木慎治課長は「速水センター長

の機能強化は、二次救急病院だった栗橋病院時代の20年4月から着手。救命救急センターに勤務経験のある速水宏樹医師を招聘し救急体制を強化しました。「搬送先がなかなか決まらないなど困難事例が多い状況を鑑み、地域完結の救急医療体制を目指しました」(速水センター長)。

2022年6月に新築移転した加須病院は利根保健医療圏唯一の三次救急医療機関です。隣接する県央保健医療圏の一部もカバーし、80万人余の救急医療を担っています。

救急隊員のレベルアップも 移転を機に整備したのが、県内初の常駐型救急ワークステーション。救急車と救急隊員士を含む救急隊員が病院に常駐し、医師らの直接指導でより高度な知識・技術を獲得するのが

増加しました。 応できる救急医です。そのため重症度の高い患者さんも受け入れてもらえるようになり、栗橋病院を頼る例が増えました」と話し、同院の救急受入数は急速



救急隊員が24時間365日常駐するワークステーション



「標準作業書」を用い、中央検査室の検査技師が同僚を教育



心電図検査室にはプライバシーへの配慮で、ISO 受審時に推奨された仕切り板を設置

中央検査科は2021年10月にこの認証を取得しました。取得を目指したのは、治験の品質保証と2016年度診療報酬改定で新設された国際標準検査管理加算の算定、そして現在進行中のがんゲノム医療連携病院の指定を受けるためで、19年7月から準備を進めました。

記録・分析・評価・改善の好循環が生まれる

品質管理システム(QMS)。患者さんや医師など検査サービスマスターのニーズを満たす高品質の検査を常に実施し、安全性と倫理面にも配慮した医療・臨床検査サービスマスターが提供できます。

そのため中央検査科では、品質目標・品質計画をもとに業務を行ない記録します。問い合わせ記録・苦情報告・受入不可検体記録・内部精度管理不適合記録・インシデント報告などです。これらの記録や内部監査・外部監査などから問題点を見つけて根本原因を分析し、改善につなげます。例えば、血液ガス分析で結果が出ていない項目がシステムをスルーし電子カルテへ送信された事象が判明。メーターと原因分析し、再測定できるように



病棟の採血管をチェックする病棟担当検査技師

国際規格の検査品質

岡山済生会総合病院

済生記者

高畑貴子

ISO基準の安心・安全・高品質な検査加算取得で病院経営にも貢献

みなさんはISO15189をご存じでしょうか。臨床

検査室の品質・技術能力を認める国際規格で、各種法令の遵守、

安全管理などが厳しくチェックされるもので、当院中



常駐型救急ワークステーションには消防署と同じ指令システムが

域全体のプレホスピタルケアの充実・強化につながる」と鈴木課長は指摘します。救命救急士には医師の指導の下で実施できる手技があり、初療室では速水センター長らが積極的に声をかけます。「指導下であれば気道確保などの特定行



指導救命士・柿沼さん

為も対応できるので、常にマンパワー不足の救急現場は助かっ

ています(速水センター長)。救急隊員は、速水センター長が毎月行なう救急隊員向け勉強会で各科の医師・専門職の講義を受けるほか、院内勉強会にも参加。「住民の命を守るチーム医療の一員として当然」と、救命救急士の指導を担う指導救命士・柿沼大介さんら救急隊員は積極的です。加須病院の救急車搬入数は

栗橋病院時代を大幅に上回るペースで増加。2022年6月〜11月は2625台で、前年同期の1.34倍です。しかし三次救急医療機関としては、より広域から重症例の搬送を引き受ける必要もあります。そこで常駐する救急車に医師が同乗するドクターカー的な運用を目指す計画です。災害医療においても、初動から病院と救急隊員が連携し対応できるのが常駐型救急ワークステーションの強みであり、新たな三次救急医療機関のあり方を模索していきます。(メディカル・リリーフ 大根健二)



常駐する救急車のドクターカー的運用も視野に入れている





自立支援の居宅訪問先で、新たな目標を共に考える

坂町の広報誌「広報さか」に毎月、いま知ってほしい情報を1ページで寄稿。当該ページは町内80カ所の店舗・施設にも掲示してもらう(2022年6月掲載) Vol.38 地域食堂II 発会

地域!元気!お役立ち!

坂町地域包括支援センター 通信 広報

つながり生まれる場所!! 地域食堂が誕生!

「みりの食堂」

誰もが立ち寄れる居場所を創りだす。発会です!

【職員紹介】田中 理英(保健師・看護師)
4月から当センター(業務)の職員として勤務しています。坂町の地域包括支援センターとして、住民の生活を支えるために活動しています。よろしくお願いします。

【職員紹介】伊達 仁美(相談員・社会福祉主事)
4月から当センター(業務)の職員として勤務しています。住民の生活を支えるために活動しています。よろしくお願いします。

坂町地域包括支援センター(本館) 885-3701 伊達 仁美

います。例えばコロナ禍ではフードバンクと連携し、困窮世帯や学生に食材などを届ける「誰も取り残さない支援」を実践。そうした地域の活動で把握した個別の困りごとは、状況が重なれば誰もが直面する地域の課題と捉え、多様な専門職・団体・組織・行政による地域ケア会議で検討・共有し、関係者で連携して対応しています。「誰にとっても優しい地域づくり」の一環では、認知症サポーター養成講座を住民向けのほか、小中学校・警察学校・一般企業などで実施しています。坂町の小学生はランドセルに認知症理解者の証し「オレンジリング」を装着し、登下校時に地域の見守り活動をしています。

に発信しています。それが奏功し21年12月に生命保険協会から「地域支援の足」として軽自動車(軽自動車)が寄贈されました。当センターに寄せられる相談は年間約3000件。本来業務の介護保険関連の相談・連絡のほか、生活不安の訴え、地域に心配な人がいるという情報提供、虐待を疑う通報などさまざま。狭い道にも入っていきけるこの車両は、そうした現場へ向かう際も、地域の巡回や相談支援活動にも大活躍しています。



オレンジリング付きランドセルを背負った小学生の認知症サポーター



町内は軽自動車できりぎりの狭い道も多い

被災者支援が地域づくり支援へ昇華

坂町は平成30年7月豪雨で土石流や河川の氾濫にみまわれ、町内の3割が被害を受けました。やむなく住み慣れた地域を離れ、仮設住宅や災害公営住宅に移った人たちの生活再建の支援も当センターは継続しています。その一つが、再建先で再び住民同士がつながることの大切さを学ぶ講座の開催で、住民の組織化を後押ししています。その

活躍の場は地域にある

(広島) 坂町地域包括支援センター 生活支援コーディネーター 木下健一

坂町地域包括支援センターは、広島県済生会が2006年度に坂町から受託した事業です。現在は職員7人で介護予防、権利擁護、介護・医療・住民などのネットワークづくり、総合相談などを行なっています。

スタッフ7人がアウトリーチで地域を奔走、誰も取り残さない

住民の悩みは地域の課題

瀬戸内海に面する人口約1万3000人の坂町は、傾斜も多い山間地で親族の結びつきが色濃い旧来エリアと、平成後期に沿岸部を埋め立てて開発

した新興住宅エリアが混在。旧来エリアには車で入れない住居も多く「加齢とともに住み慣れた自宅周辺の坂道の感じ方が変わってきた」と住民からの声があるなど、特に高齢者・障害

者の外出が課題です。そこで当センターは住民が地域で孤立しないよう、現場へ出向くアウトリーチ支援に徹して



システムを変更しました。当院には1年間のQMS活動を振り返り、その適切性・妥当性・有効性をISOが要求する項目に照らして評価・見直しするマネジメントレビュー会議があります。各部門のQMS活動担当者は毎年そこで年次報告し、病院全体の改善にも貢献しています。

的に、3週間おきに担当の臨床検査技師が病棟に向くもの。採血容器の使用期限の確認、在庫の補充、困りごと・要望の聴取を実施し、それらのニーズに速やかに応えるほか、折に触れてスタッフのスキルアップ・業務の標準化を目的にしたミニレクチャーなども実施します。病棟担当検査技師の配置によって、医師・看護師と顔の見える関係が築けたと感じています。

とお褒めの言葉をいただいた。今までの努力が報われた気がしています。病院経営面でも国際標準検査管理加算の算定という附加価値をもたらし、中央検査科に対する院内外の信頼度はさらに高まっています。

るマネジメント体制が構築でき、病院全体としても大きく成長できました。中央検査科は今後も現状維持ではなく、安心・安全で良質な医療サービスの提供に向けさらなる進化を目指していきます。



病理室の病理標本は、消防法を遵守し落下防止の木片を設置



谷仲医師(左から4人目)とDr. Pussadhamma(左隣り)

大病院のワークショップに参加しました。

BPAは指定難病の慢性血栓性肺高血圧症に対する治療法で、日本を中心に良好な成績が数多く報告され、日本から世界に広まっています。東南アジアでは治療法として確立されていません。コンケン大病院は現在、タイ国内でBPAを行なうことができる唯一の施設です。そこで今回、同院のDr. Pussadhammaと協力し、タイにおけるBPAの普及・ワークショップを初開催しました。谷仲医師は「BPAの手術」について講演した後、Dr. Pussadhammaと2症例をアイスクッションしながら実際に治療を行いました。タイ各地から医師が参加したワークショップの様子はイン



(愛媛) 松山乳児保育園が毎年作る干し柿。おいしそうなお記事は36ページをご覧ください。

topics



ターネットでも同時配信されました。

(済生記者 渡邊良子)

消防とドクターヘリ訓練

滋賀県病院

滋賀県病院は12月4日、大津市消防局と京滋ドクターヘリの活動訓練を実施しました。「8時50分頃、小松学区居住の男性がトイレ後に胸痛を発症した」の通報で訓練を開始。心筋梗塞から心肺停止に移行すると設定で、消防機関との無線を活用した情報共有、ドクターヘリ

豊浦総合支援学校中等部 1年2組からの贈り物

(山口) 豊浦病院

当院に隣接する山口県立豊浦総合支援学校中等部1年2組の生徒3人が12月20日、医療従事者を応援するポスターを届けてくれました。 「新型コロナウイルスにウイルスに気をつけてください。これからも



みんなを守ってください」と声をそろえ伝えてくれた3人。応対した中司謙二院長は「みなさんからの励ましの言葉は心に響き、とても勇気づけられる。本当にありがたい」と述べ、お礼のクリスマスプレゼントとして文房具を手渡しました。ポスターには「心からありがとう」のメッセージやアマビエの絵など、心のこもったカード8枚が貼り付けられています。多くの職員の目に触れるよう、院内掲示板に掲示しました。なお、この様子は地元紙・山口新聞で取り上げられました。

(済生記者 西田千鶴)

★いろいろなものが緩和されつつありますが、医療・福祉従事者は緊張感のある日が続きます。変わらない励ましには本当に元気が出ます。

(済生会本部 河内淳史)

タイにBPAを普及する 谷仲医師がワークショップ

兵庫県病院

当院循環器内科の谷仲謙一医師が12月、バルーン肺動脈拡張術(BPA)の講演と実技共有を行なうため、タイのコンケン

しかし、コロナ禍の数年間交流が停滞。この日の会議では、ウイズコロナ・ポストコロナに向けた関係の深化を目指しました。ヘルニ学長はじめ多くの教員・学生が参加し、今後の連携などについて議論しました。加速する少子高齢化の中で、



グローバル人材の協力は必須です。済生会ならではの特色のある介護人材の育成と国際交流、優秀なグローバル人材の確保を図っていきます。

(管理課長 岩崎勝也)

インドネシアの看護大学とオンライン会議

(山形) 特養ながまち荘

(救急外来 尾島由美)

ながまち荘は1月12日、インドネシアの看護大学「モハマデアゴンボン大学」とオンライン会議を行いました。当荘は、インドネシアとの経済連携協定(EPA)に基づき、外国人介護福祉士候補者を11人受け入れ、3人の介護福祉士合格者を輩出してきました。同看護大学とはこの間に、卒業生の送り出し支援や日本語教育などで互恵的な連携を進めてきました。

〔神奈川〕横浜金沢医療
福祉センター

いつまでも楽しく歩こう！
白井PTが歩き方講座

地域の協議体・ささえ愛のつどいが10月31日に開催した歩き方講座で、若草病院の白井恵理



学療法士が講師を務めました。「ささえ愛のつどい」は、市町村が行なう介護予防・日常生活支援総合事業の中の生活支援体制整備事業に該当し、住民が独

自に地域課題を解決するための協議体です。当センターにある六浦地域ケアプラザには、その事業活動を推進する生活支援コーナー「デイネーター」が横浜市から配置されており、社会福祉協議会と協力し支援しています。

この日は転倒などのリスクをセルフチェックしてもらい、参加者19人の歩行を白井PTが確認した上で、いつまでも自分の足で歩くためのトレーニングを、実技を交えて教授しました。参加者は、「話を聞くだけでなく、上手な歩き方がよく分かった」と述べました。

（済生記者 高木裕子）

〔大阪〕泉尾病院
リハビリ相談会に20人

大正区社会福祉協議会主催のきらめきパーティー2022が11月19日に開催され、当院は大正区リハビリテーション連絡会の一員としてリハビリ相談会を出展しました。会場の大正区ふれあい福祉センターには、約700人の住民が来場しました。

当院から参加したのは筆者と



リハビリテーションセンターの理学療法士・住谷和子係長。日本理学療法士協会が一般向けにつくった健康冊子「理学療法ハンドブック」を配布し、体調管理に関するリハビリ相談や体力測定などを実施しました。

約20人から、日常的にできる運動の方法や姿勢を正しくする方法など、健康の維持・増進に関する相談をいただき、健康意識の高さを実感しました。

（リハビリテーション科
理学療法士 課長 三堂陽二）

〔石川〕金沢病院
安田センター長が知事表彰
地域防災力向上に貢献

金沢病院内にある石川県地域生活定着支援センターの安田博之センター長は12月19日、県知事表彰を受けました。防災士として、地域防災力の向上に尽力



馳浩知事(左)と安田センター長

した功績が他の模範になると認められたものです。今年には県内の自主防災組織7団体・防災士26人が受賞しました。

安田センター長は防災士資格を取得して10年。地域校区での



障害児・医療的ケア児が
笑顔で動物とふれあう

〔茨城〕訪問看護ステーションかみす

自主防災活動や訓練・指導に尽力し、居住市でも、市の要請を受けて防災訓練などの指導役を務めています。

安田センター長は、防災活動

では「自分自身と大切な家族の安全の確保が一番」と最初に語ります。そして「地域の消防団・自主防災組織・ボランティア組

神栖済生 会病院のプロジェクト
「カミス」プロジェクト
とKIDS」は11月20日に神栖市保健福祉会館駐車場であい動物園を開催し、当ステーションのスタッフもボランティアで参加しました。

「カミス」は、在宅で過ごす重症心身障害児や医療的ケア児を支援する活動です。今回のふれあい動物園はそうした親子に外出機会を提供し、家族同士の交

織などに積極的に加わり、近隣とのつながりが、顔と顔が見える関係を作ることが大切」と呼びかけています。

これを機に「今後は女性にも

防災士資格取得、訓練活動への参加を促していきたい」と抱負を語ってくれました。

室内でもボランティア団体によるバルーンアートやオーナメント作りなどを楽しみました。

（済生記者 中川範彦）

福井県済生会病院
災害時の支援体制を確認

「済生会北信越ブロック災害時対応訓練プログラム」が、11月12・13日の2日間、当院大研修室で開催されました。

福井県・長野県・新潟県・富山県・石川県などの13施設から、災害対策本部の中心を担う病院長・施設長や看護部門・事務部



門の責任者など27人が参加。災害救護活動の講義、衛星携帯電話の使用法説明、クロノロジーの実習、総合演習などを行いました。

実行委員を務めた当院の田中

一弥総務・企画課主任は「災害はいつでも起こり得るもおかし

くない。訓練の重要性、本部や他施設との連携などを確認できた」とコメントしました。

（済生記者 吉川千恵）

東神奈川
リハビリテーション病院

16人にフレイル予防教室

東神奈川リハビリテーション病院の理学療法士・今村朋博さんは11月1日と29日に、(神奈川)菅田地域ケアプラザで住民向けフレイル予防教室を催し、



住民16人が参加しました。今村PTはフレイルに関する講義に続いてフレイル予防体操を指導し、身体能力テスト(握力・歩行速度・5回立ち上がり)を実施。その後、参加者の質問に答え、日常生活上の留意点などをアドバイスしました。

参加者は元気な人が多く、そのまま元気で暮らし続ける一助になってほしいと感じました。当院では引き続き、こうした場に職員を派遣していきます。

(済生記者 佐藤貴啓)

神奈川県病院
地域の災害医療通信訓練

「神奈川区災害医療の通信訓練」が11月27日に区内7病院参加のもとで行なわれ、当院の医師・日直看護師・事務職員ら6人が参加しました。

「日曜日午前3時にマグニチュード7・3の首都直下地震が発生」と想定し訓練開始。災害に強いMCA無線で神奈川区災害本部へ被害状況を報告し、広域災害救急医療情報システム



E.M.I.S.に情報を入力しました。さらに災害発生時刻に合わせて、当日早朝に病院独自の安否確認メールと参集可否メールを職員へ送信。返答を集計し状況報告も行ないました。災害本部と各病院間で無線のやり取りが始まると、一気に緊張感が増し、本番さながらの情報交換にみな真剣な表情に。当院はあえて、MCA無線やE.M.I.S.に普段触れることのない日直看護師が対応。各種報告や不慣れたE.M.I.S.操作に苦戦しながら無事に訓練を終えました。

(済生記者 小山友輝)

福井県済生会病院

細川部長に県警から感謝状
被害者支援への貢献で

産婦人科の細川久美子部長が11月17日に福井県警察から感謝状を授与されました。長年にわたり、福井被害者支

援センターの理事を務め、事件・事故などの被害者支援に努める細川部長。当院に14年4月に開設した県内唯一の性暴力救済センター・ふくい(ひなぎく)の運営にも尽力するなど、安全・安心な地域社会の実現に多大な



貢献をしたことが評価されました。

この日は福井県の厚労課長ら2人が来院。少し緊張しながら表彰状を受け取った細川部長は、「今後も息長く、切れ目のない支援を継続していきたい」とあいさつしました。

(総務・企画課 山村健太)

メタバースにアバターで新感覚の忘年会
熊本病院

熊本病院は12月27日、メタバース(仮想空間)忘年会を開催

しました。コロナ禍で集合開催がむずかしい中、病院全体の

DX推進と、基礎的なITリテラシー向上の絶好の機会として、多様なコミュニケーションが図れるメタバース上での忘年会を企画したのです。

310人の職員がアバターとなり、自宅のPCやスマートフォンからオンラインで参加。事前に収録した中尾浩一院長の

あいさつ動画に始まり、職員表彰式のライブ配信、豪華景品をかけた全員参加のレクリエーション「O×クイズ」を実施しました。最後に、当院音楽部の演奏に合わせて、今年1年の活動を振り返るエンドロールムービーを放映。コロナ禍で日々奮闘する職員の労をねぎらいました。合同には、参加者が自らのアバターを自由に動かして他のアバターに近づき歓談するなど、職員は新感覚のバーチャル空間を大いに楽しみました。

(済生記者 東賢剛)

境港総合病院

共同開発3社から寄贈
非接触式医療廃棄物容器

境港総合病院は12月22日、バイオハザードボックス電動開閉装置を共同開発した企業3社から、同装置3台を寄贈していただきました。

当院と共同開発したのは、株式会社カノン、有限会社ニシモト、株式会社日本マイクロシステムスの3社。佐々木祐一郎病院長から感謝状と、次のような感謝の言葉を贈りました。

「この電動開閉式医療廃棄物用



容器は非接触型の設計なので、感染予防に役に立ちますし、従来品のように蓋の開閉ペダルを踏み損ね、職員が転倒するような事故も防げます。当院の津田公子副院長の提案を真正面から受け止め、研究・開発、そして商品化を実現していただきました。みなさまに心から御礼申し上げます。この製品が全国の医療機関に普及するよう、私たちも広報に努めていきたいと強く思っております」

(済生記者 坂本佑太)



topics

た課題解決に向けた取り組み。大雨・台風など事前に把握可能な災害対応に効力を発揮します。具体的には、「メディカルケアステーション」上で連携した医療機関・施設が、医療度や介護度が高く避難所利用が難しい人の情報や空床情報を共有し、いち早い避難を目指します。

訓練では2事例を設定。参加機関をZOOMで結んだ状態で実際の避難相談対応を行ない、グループラインの返信の仕方などの改善点を把握しました。来



提供体制の稼働シミュレーション」を、医療介護専用SNS「メディカルケアステーション」上で実施しました。

これは5ブロック地域包括ケアシステム推進協議会で把握し



加須病院は12月15日、埼玉県東部消防組合本部の協力の下、移転してから初めての避難訓練を実施し総勢479人が参加しました。

埼玉県北部を震源地とする最

移転後初の避難訓練

〈埼玉〉加須病院

年度には、実際の災害の際に避難所利用が難しい人などをしっかり受け入れられるように検討を進めていきます。

(地域医療連携室課長 濱崎妃沙子)



〈愛媛〉松山乳児保育園
あまーい干し柿できた

松山乳児保育園は12月5日に干し柿を作りました。

保育士が柿の皮を長くくむくと、子どもたちが目を輝かせて見上げました。むき終わると、園児みんなの名札を一つずつ付けて軒下につるしました。

それから2週間経ち、干し柿が食べごろを迎えました。「かき、くろくなつたね」「おいしいかな?」とワクワクしながら口に入れてみたら、「あまーい」。みんなで顔を見合わせ、大きな干し柿を口いっぱい頬張って食べました。

干し柿は日本の伝統的な保存食ですが、近頃は家庭で作るこ

とが少なくなっています。当園では毎年作り続け、子どもたちと楽しんでいきたいです。

(済生記者 河野敦子)

静岡済生会

療育センター令和

静岡キワニスクラブから キワニス・ドール50体

当センターに入所中の患者さんのご家族の仲介で、12月14日に静岡キワニスクラブからキワニス・ドール50体の寄贈を受けました。

キワニス・ドールはクラブの会員が手作りの白無地の人形。医師・看護師らが病気や治療の説明をする際に活用し、子どもの不安を和らげるために使います。また、子どもたちが顔を描いたり服を着せたりして遊ぶこともできます。

静岡キワニスクラブの瀧幸枝会長から人形を受け取った石山純三施設長は、「子どもたちの目に見える形で情報を伝えて治療や手術の不安を解消し、心に傷をつけないよう活用させてもらいます」とお礼を述べました。

キワニス・ドールは当施設のほか、静岡済生会総合病院の小



児科でも活用する予定です。

(済生記者 岩崎つかさ)

把握可能な災害に備える 専用SNS活用し訓練

飯塚嘉穂病院は12月16日、大雨災害を想定した「飯塚市・桂川町 災害に備える医療・介護

は「未来に向けたビジョンと戦略を探る」がテーマ。5人の副院長がオブザーバーを務めるチームに分かれ、熱くディスカッションしました。

通常業務から離れ、普段話す機会が少ない職員同士で、病院の未来について意見を交わすコ



アメンバー会議は、とても貴重な機会です。今回打ち出された数多くのアクションプランを参考に、当院は次年度の事業計画をバージョンアップさせ、職員一丸でよりよい医療提供に努めていきます。

(経営企画課 北富日奈子)

未来に向けた熱い議論で ビジョン・戦略を探る

福岡総合病院

次年度の行動計画案を策定するコアメンバー会議を12月10日に開催し、医師・看護師・メディカルスタッフなど多職種で意見交換しました。

通算9回目の開催となる今回

地区民にも要配慮者知ってもらう防災訓練

静岡県済生会

要配慮者に対応した地域防災訓練が12月4日、地元の静岡市西豊田小学校で行なわれ、県済生会の地域包括支援センター・高齢者施設・障害者施設の職員が参加しました。



会場では、西豊田学区の自治会役員や市社会福祉協議会ら約30人が避難所の運営を担い、住民約100人が避難者として参加。車椅子や発達障害の人たちにどのような配慮が必要なのか聞き取り、必要に応じてテントへ誘導しました。緊急時に備え、住民に地元の要配慮者を知ってもらうよい機会になりました。

避難所では、普段以上に感染症予防への注意が必要です。そこで済生会本部の助成金で購入した手洗いチェッカーで、住民など100人以上に洗い残しの有無を確認してもら

いました。訓練の様子は12月5日と明け1月13日の二度、静岡新聞が報じました。

(地域包括ケア連携士 渡邊紘透)

〔広島〕老健はまな荘

サービスは三重丸じゃがドラレコが付いたらんけ

はまな荘はこのほど、本年度2台目となる衝突防止機能など安全装置付きの新送迎用車両を導入しました。

開設時の1999年に利用者さんから寄贈されたリフト付き送迎用車両は、23年間で約



18万キロメートルを走破し傷みが目立つため、10月末に1台目の新車両を導入。今後は2台体制で、利用者さんの送迎サービスの向上と、職員の精神的負担軽減に努めていきます。

2台目の新車両の感想を、一番乗りした利用者の小路英一さんに聞きました。「膝が悪く足が曲がらないので、新車を心待ちにしていた。スライドドアでステップが出るようになり、乗り降りが大変楽。通い始めて4年経つはまな荘のケアの食事は満点、接遇も満点、これで送迎が満点になって三重丸。じゃがドラレコが付いたらんけ、早うつけてもらいんさいね」

貴重な意見も語った小路さんは、送迎車に乗り込むと笑顔で手を振って帰宅しました。

(済生記者 佐藤 聡)

滋賀県済生会看護専門学校 地域奉仕活動を開始

滋賀県済生会看護専門学校は今年度から、学校行事で学年ごとに地域奉仕活動を始めました。コロナ禍で地域とのつながりが希薄になっている中で、地域貢

献する方法として企画しました。12月19日には2年生35人が地域清掃を実施。氷の張る寒さの中でゴミを拾っていると、地域のみなさんから「済生会の学生さん、ありがとうございます」と声をかけていただきました。

1年生38人は滋賀県済生会の特養淡海荘・デイサービスセンター・小規模多機能型居宅介護などでしこ栗東の利用者さんのために、冬をテーマにした貼り絵パネル3作品を制作。12月20日に学生代表が届けに行き、「利用者さんや施設スタッフの笑顔と言葉に励まされた」とうれしそうに戻ってきました。

(済生記者 嶋口優子)

今年初めての献血

長崎病院

長崎病院は年2回ペースで献血車を受け入れていて、1月16日に今年最初の献血を実施しました。

業務の間を縫って職員10人が参加。今回が初めての献血という人もいて、緊張のせいか「いつもより血圧が高い」と心配する声も聞こえましたが、全員無事に献血を終えました。

コロナ禍の影響もあり、血液不足が続いているといえます。より多くの人が安心して献血で



きるように、受け入れ側も感染対策の周知などを行ないサポートしていきたいと思いました。

(済生記者 平川幸子)

熊本福祉センター

安全運転講習会を実施

熊本福祉センターは12月に、安全運転講習会を7回に分けて実施しました。講師は、東京海上日動火災保険と、代理店のM&Mプランニングの担当者を招きました。

当センターには34台の公用車

があり、これまで大きな人身事故は起こしていないものの、数件の物損事故などは発生しています。そのたびに、自動車運転指導者による1時間程度の運転指導を実施してきましたが、今回は改めて職員全体に安全運転を周知徹底するために講習会を企画しました。

(済生記者 元松順子)



愛知県青い鳥
医療療育センター



演奏会と天の川

コロナ禍で夏の風物詩・青い鳥夏祭りを丸3年見送った代わりのイベントとして10月19日に、職員有志のバンド・すまいる音楽隊の演奏会と星空鑑賞会を実施しました。

演奏会は感染対策のため施設の外で実施。童謡や歌謡曲などの生演奏を楽しみました。星空観賞会は超小型プラネタリウムを借りて実施。施設内の壁一面に100万個の星が映ると大きく目を見開いて見入ったり、星に触ろうと手を伸ばしたりする利用者さん。天の川を見るのはみんな初めての体験。「きれいだっ！」「また見

たい」という声がたくさん上がりました。

(済生記者 田口幸子)

北海道の組織で初!
経営デザイン認証を取得

(北海道) 小樽病院

帝国ホテルで12月23日に行なわれた経営デザイン認証式で、小樽病院は「スタートアップ認証」を取得し、経営デザイン認証委員会の登谷大修委員(福井県済生会病院院長)から、和田卓郎院長が認証状を受け取りました。

日本生産性本部・経営品質協議会が、組織のありたい姿や変革課題などを「経営の設計図」に描き、その実現に向けた変革の実践が一定程度認められた組織を認証するもので、北海道の組織では初の認証です。

当院では、院長と3人の副院長、事務部長が出した考えをまとめて「これからの設計図」を作成。2時間に及ぶトップインタビュー審査をオンラインで受審し、認証に至りました。ありたい姿の実現にはトップマネジメントだけでなく、スタッフ全員の理解・納得・協力が



2022年度経営デザイン認証式

必要。みんなで知恵と力を出し合い、取り組んでいきます。

(済生記者 松尾寛志)

救急科専門研修基幹病院に
加須病院

(埼玉) 加須病院

加須病院は11月、日本専門医機構から、救急科専門研修プログラム基幹病院に認可されました。

昨年6月の開院と同時に、救命救急センターを開設した当院。利根医療圏唯一の三次救急医療機関として重症患者の対応はもちろん、二次救急も含めて年間5000件近くの救急患者を



設しているのも特長の救命救急センターでは、医師の救急車同乗出動なども行なっていく予定です。

(経営企画課 蓬田絵里子)

「地域に寄り添う病院広報」
松岡企画広報室長が発表

京都済生会病院

当院の松岡志穂企画広報室長は11月30日、オンライン開催された病院マーケティングサミット JAPAN2022 の病院広報シンポジウムとして登壇し、「地域に寄り添う病院広報」のテーマで発表しました。

松岡室長は「広報とは院内外でのコミュニケーションの構築と維持である」という持論をもとに、「忘れ去られた病院」と言われた当院が、職員や患者さん、地域住民に「この病院でよかった」と思ってもらえる病院になれるように」と、精力的に取り組む広報活動の実例を紹介。発表後、参加者から「さまざまなカタチでタッチポイント(顧客接点)を積み重ねているところが大変勉強になりました」



肝臓共同研究グループ
幹事を大阪で開催

岡山済生会総合病院

「した」などの感想が寄せられました。

(済生記者 村瀬佳奈子)

全国済生会肝臓共同研究グループ (SAISEIKAI LIVER STUDY GROUP) 略称 SLSG) は1月7日、今年度の第1回幹事を新大阪のマリオネットホテルを拠点にハイブリッド方式で開催されました。済生会の横断的研究組織の一つである当グループは、主に肝疾患の勉強会や全国組織のメリットを生かした共同研究を実施し、学会発表や誌上報告しています。

この日は、昨年10月に JDDW (日本消化器関連学会機構) 2022で報告したグループ研究「NAFLD および原因不明肝障害患者におけるライソソーム酸性リパーゼ欠損症の検討」の報告と検討、今後予定している慢性C型肝炎や非アルコール性脂肪性肝疾患、肝臓等に関する研究課題について意見交換しました。



video1023548682



「瀬戸内海で活躍する船を知ろう」と題したイベントが11月28

香川県済生会病院
見て・触れて・知る済生丸
小豆島のイベントで



者さんに登壇いただき、手術に踏み切ったきつかけやつらいいハビリを乗り切った実体験を聞く――の3部構成としました。
脚の痛みに悩まされていた患者さんが登壇し両膝をそろえて立つ姿や歩く姿には、期せずして聴講者から大きな拍手が沸き起こりました。
(済生記者 西澤真由美)



東南アジアの18人が災害医療を学ぶ

〈大阪〉千里病院

11月28日からの5日間、JICA（国際協力機構）の「ASEAN 災害保健医療管理に係る地域能力強化プロジェクト（ARCH2）」の一環で、東南アジア9カ国の研修員18人が来院しました。
ARCH2は日本とASEANの災害医療の人材交流や知識共創を通じて、ASEANにおいて災害に強い保健医療システムを確立するのが目的。千里救命救急センターでは2009年からJICAの同様のプロジェクトを

東神奈川リハビリテーション病院

6病院合同看護補助者研修
新人教育の改善が課題

神奈川県済生会の6病院は、合同看護補助者研修を11月18日に東神奈川リハビリテーション病院で開催し、19人が参加しました。
3回目の今回のテーマは、「多職種との具体的な連携方法」介護職としての視点の発揮・介護



職が入るメリット」。まず横浜市東部病院・神奈川県病院・横浜市南部病院・若草病院・湘

受け入れています。
期間中は毎日9時から17時まで、日本の医療保険制度・救急医療の歴史・体制、多数傷病者事案管理体制などの講義や、自国の救急医療システムやCOVID対応の課題についてのグループワーク、院内見学などを実施。研修員はみな、非常に熱心に学んでいました。
今回得たことを、母国の災害医療の発展に生かしてもらえらることを願っています。
(済生記者 秋山みゆき)

滋賀県病院
膝関節痛の最新治療を紹介
体験談語った患者に拍手

（済生記者 佐藤貴啓）

南平塚病院・東神奈川リハビリテーション病院の代表者がおのおのの現状を報告。その後、6、7人ずつの2グループに分かれ、多職種との連携についてディスカッションを行いました。できていない部分や浮き彫りになり、来年度に向けて特に新人教育を改善していきたいと課題が明確になりました。
滋賀県病院は12月17日、市民公開講座「ご存じですか？ 膝関節の痛みに対する新しい治療法」（後援：草津栗東医師会）を栗東芸術文化会館で開催し、住民182人が参加しました。
当院の整形外科・平岡延之主任部長代行と、同・大宝英悟膝スポーツ外科部長が講師を担当。プログラムは①平岡延之医師が変形性膝関節症などで痛みが出るメカニズムを動画で分かりやすく解説②大宝英悟医師が「骨切り術」などの治療方法を詳述③実際に骨切り術を行なった患



日に開催され、当院は小豆島町堀越で済生丸の見学会を開きました。

主催者は、明るい小豆島づくりにへの貢献を目的に活動する小豆島カッターボートクラブしまかせ（SCBC島風）。「50年以上の長きにわたり瀬戸内海島しょ部の医療を支えてきた済生丸を、広く島民に知っていただきたい」と声をかけていただき、実現しました。
親子連れなど約60人が、済生

丸の船内を興味深く見学し、船の役割や仕組みなどについてたくさん質問をしていただきました。参加者は「思ったより本格的な医療機能を持っていて、びっくり」「島の暮らしならではの特色を学ぶよい機会になった」とコメント。
済生丸を知らない島民も少なくなく、見て・触れて・知ってもらおうよい機会になりました。
(済生記者 西山汐里)

長原院長が感染症を詳説
「マスクの必要性わかった」

〈埼玉〉加須病院

長原光院長は12月の加須地域コミュニティづくり推進協議会研修会で「みんなで実践、感染症予防」の講演をしました。会場の加須市民ホールには住民35人が集まりました。

分子生物学（ウイルス学）が専門の長原院長は、「コロナウ

イルスとは何か」「なぜマスクをしないといけないのか」「不織布マスクとガーゼマスクの違い」などを分かりやすく解説。さらに、コロナ長期化による高齢者のフレイル増加の要因や予防法にも触れ、聴衆はメモを取り熱心に耳を傾けました。
「なぜマスクをしないといけないのか疑問に思っていた。ウイルスの特性や感染する理由が知れて納得した」と満足気な参加者。ウイルス一つとっても多くの情報があふれている中で、専門の医師の話を直接届けることができた貴重な機会でした。
(経営企画課 蓬田絵里子)



長崎福祉センター

みんなで「話してみよう」で
まちのキャッチコピー考案

長崎市西山台小学校校区で12月4日に開催された「第3回みらい話してみよう」に筆者が参加しました。「こんなまちに暮らしたいなあ」を、この地域に住む人・働く人・活動する人で考える場です。

関係者や住民など約30人が参加。昨年6月の第2回で話し合ったまちづくり計画のアイデアを確認・修正し、必要な部分を補足しました。



その後「ま
ちの将来像を
考える」のテ
ーマで議論し、
次の四つのキ
ャッチコピー
案を出しまし
た。①子ども
からお年寄り
まで 代々つ
ながる西山台
②老いも若き
もにこやかに
幸せあふれ
る西山台③支
えあう 笑顔

いっぱい 元気な街 世代を超えて住みたいふるさとへ④愛があふれる街(西山台) 知りあい触れあい助けあい それって

どこだい? 西山台——。後日、長崎市が検討し決定します。

「みらい話してみよう」(未来の話をししよう)に参加する中で、10年後・20年後・30年後のこのまちがどうなるのか楽しみになっていました。

(済生記者 川端 誠)

〈熊本〉みすみ病院

熊大医学生の実習受け入れ

熊本大学医学部の早期臨床体験実習Ⅲの協力施設となつていくみすみ病院は、12月5日から9日まで、学生1人を受け入れました。

同大は1年次に医療・福祉施設実習を、2年次は大学病院内実習を実施し、3年次にこの実習を行なっています。当院は2016年から協力施設となつていて、今回が3回目の受け入れでした。

5日間と短い期間でしたが、学生は基本的なカルテ作成の流れを体験してもらい、外来・検査・カンファレンス・病棟回診



と訪問診療にも同行。医師業務に加え、多職種の役割や地域医療の現場など多くのことを学んでもらいました。

今後も医療人育成のため、さまざまな教育現場に協力できるよう努めていきます。

(済生記者 船橋麻紀)

〈山形〉特養ながまち荘

ハラスメント防止研修

「職場におけるハラスメント防止」の研修を1月11日、ながまち荘内の安全避難棟2階研修室で行ない、職員45人が参加しま

の難しさを感じます。

講義では、基本的なハラスメントの要件のほか、世代間でハラスメントに対する大きなギャップがあること、被害を受けた場合はどれだけ早期に相談窓口へ駆け込めるかが重要であること——などを教わりました。

(済生記者 高見友郁)



した。講師は社会保険労務士の浦山一豊さん。感染対策に配慮し、当施設では初めてハイブリッド形式で開催しました。

近年「〇〇ハラスメント」と当たり前のように耳にします。言動に注意しているつもりでも、相手の受け取り方次第でハラスメントに該当しかねず、線引き

エスカレーターではなくエレベーターを

〈石川〉金沢病院

金沢病院は12月から3月までの第1週目の月々金曜日を「転倒転落予防週間」とし、外来エスカレーター前でブルーのTシャツのElevator☆Escalator



Girl & Boyが活動しています。

この活動は転倒転落予防対策チームと患者サポートセンターで考案。エスカレーターの転倒事故を防ぐため、杖歩行の人や

スマホを操作するなど、ながら動作で乗る患者さんに声をかけ、エレベーターの利用促進と筋トレ・ストレッチ・骨粗鬆症予防を案内するパンフレットを配布しています。

併せて、患者さんがエレベーターに乗りたくなくなるよう、外来エレベーター内に「金沢検定」のタイズを貼ったり、エントランスのデジタルサイネージでもエレベーターの利用促進を呼びかけています。

現在は中心メンバー20人の活動ですが、さらに多くの職員も巻き込んで、同週間以外も杖歩行者や足元が不安定な人、大きな荷物を持った人などはエレベーターへ誘導するのを習慣化し転倒事故ゼロを目指します。

(済生記者 中川範彦)

滋賀県病院

JRA 栗東トレセンが
医療機器など寄贈

日本中央競馬会栗東トレーニングセンターから12月15日、新型コロナウイルスによる医療ひっ迫への対応で医療機器を寄贈いただきました。寄贈式で、後藤孝生副場長から三木恒治院



このほかにも今回は、既舎関係者救護体制円滑化事業で、低周波治療器や昇降式平行棒など複数のリハビリ機器も寄贈していただきました。同センターの支援を力に、よりいっそう充実した医療提供・地域貢献に努めていきます。

(済生記者 西澤真由美)

夜間火災の消防訓練で
煙の怖さを実体験

〈埼玉〉川口総合病院

川口総合病院は12月7日、消防訓練を3年ぶりに行ないました。

夜間火災を想定し、川口市消防局南消防署横曽根分署立ち合いの下で、初期消火、消防への通報、患者さんの安全な救出などを実践的に訓練しました。高層救助訓練も実施し、はしご車で7階屋上から要救助者を救出



しました。

煙が充満した状況から避難する「煙中ハウス」も体験。消防署員から「煙の中では壁伝いに姿勢を低く」と指導され臨んだ参加者でしたが「目の前もほぼ見えない。これが火災の煙だったらパニックになってしまいう」と煙の怖さを知りました。訓練用の水消火器的に向けて放水する訓練には多くの職員が参加し、「火事だ！」と大きな声が響きました。

（済生記者 原衣里奈）

〈大阪〉野江病院

開業医と交流深める
第23回医療連携学術講演会

野江病院は11月26日、第23回大阪市東部地域医療連携学術講演会を帝国ホテル大阪で開催しました。感染対策で人数制限し、前回同様オンラインとのハイブリッド形式で実施。地域の開業医と当院の医師・職員総勢47人（会場27人・オンライン20人）が参加しました。

プログラムは①消化器内科・羽生泰樹部長「抗血栓療法時代の胃粘膜保護の重要性」②肛門外科・水上陽副部長「肛門疾患の



外科治療③呼吸器内科・相原顕作部長「ウィズコロナ時代の肺炎診療」④形成外科・南方竜也部長「創傷治療センター 次のStageへ」下肢静脈瘤、足変形治療について——の4講演。いずれの演題も活発な質疑応答があり、大変有意義な学術講演会となりました。

（地域医療連携課 副課長 竹中信二）

静岡済生会

療育センター令和

森山名誉施設長が
厚生大臣表彰を受ける

森山明夫名誉施設長が12月13

医師の直筆メッセージも載せました。電子カルテになって、あまり見ることがなくなった医師の手書き文字は新鮮で個人的。それぞれが、どんな思いで医療に携わり患者さん向き合っているのか、医師の素顔が垣間見えます。

レイアウトや文章の構成、挿絵などにもこだわり、職員や地域の施設、患者さんに大好評の「ドクターズファイル」。当院ホームページの「病院概要」の中の「病院広報」ページでご覧いただけます。

（済生記者 下村桂子）

京都済生会病院

「健幸」はお任せください
人間ドック健診施設に認定

京都済生会病院は11月10日、日本人間ドック学会の「人間ドック健診施設機能評価Ver.4.0」に認定されました。

昨年6月1日の新築移転に伴い健診センターを拡充したため、新規顧客獲得のためにも本認定が必要でした。移転準備に追われながら4月に受審を申し込み、わずか7カ月で認定を受けられたのは、健診センター長

日付けで、社会福祉事業従事労働者として厚生労働大臣表彰を受けました。

森山名誉施設長は1993年から29年間にわたり施設長を務め、昨年10月12日に名誉施設長に就任しています。

このたびの表彰は、年が明けた1月10日に静岡市役所障害福



社企画課長から伝達があり、表彰状と記念品を授与いただきました。

多年にわたり社会福祉事業に精励し、顕著な功績が認められた森山名誉施設長の表彰は、私たち職員にとっても大変喜ばし

でもある吉田憲正院長をはじめ、小林恭子健診部長、健診センタースタッフが受審を前向きに捉え、取り組んだ結果といえます。今後も受診者さんや地域のみ



なさんの「健幸」（健康と幸福を合わせた造語）のお手伝いができるよう、健診センターの理念「思いやりの心をもって健幸をささえる」の実践に努めます。

（健診センター係長 瀬元健太郎）



医師の素顔が見える
こだわりの広報誌

〈山口〉下関総合病院

く誇らしいです。
（済生記者 岩崎つかさ）

下関総合病院は一年7月から昨年10月にかけて、診療科ごとの広報誌「ドクターズファイル」を17冊発行しました。

表紙や本文中には、医学写真技師がこだわりぬいて撮影した医師の写真をもんだんに掲載。手術中の真剣な眼差し、患者さんに向けた笑顔、モデルのようなスナップ写真などが読者の目を引きま

「山形」 特養ながまち荘
厚労大臣表彰の会田主査
「好奇心も役に立つ」
 介護主査の筆者は12月13日、
 多年にわたる社会福祉事業従事



録係や評価者の役割を分担。災害発生から診療に至るまでの一連の流れを、実践しながら確認しました。
 今回の訓練で、人員配置の見直し、トリアージタグの取り扱い方の運用統一、本部の運営方法、備品の不足などに問題点を見出しました。今後も定期的に訓練を重ね、災害や事故に備えていきます。
 (済生記者 船橋麻紀)

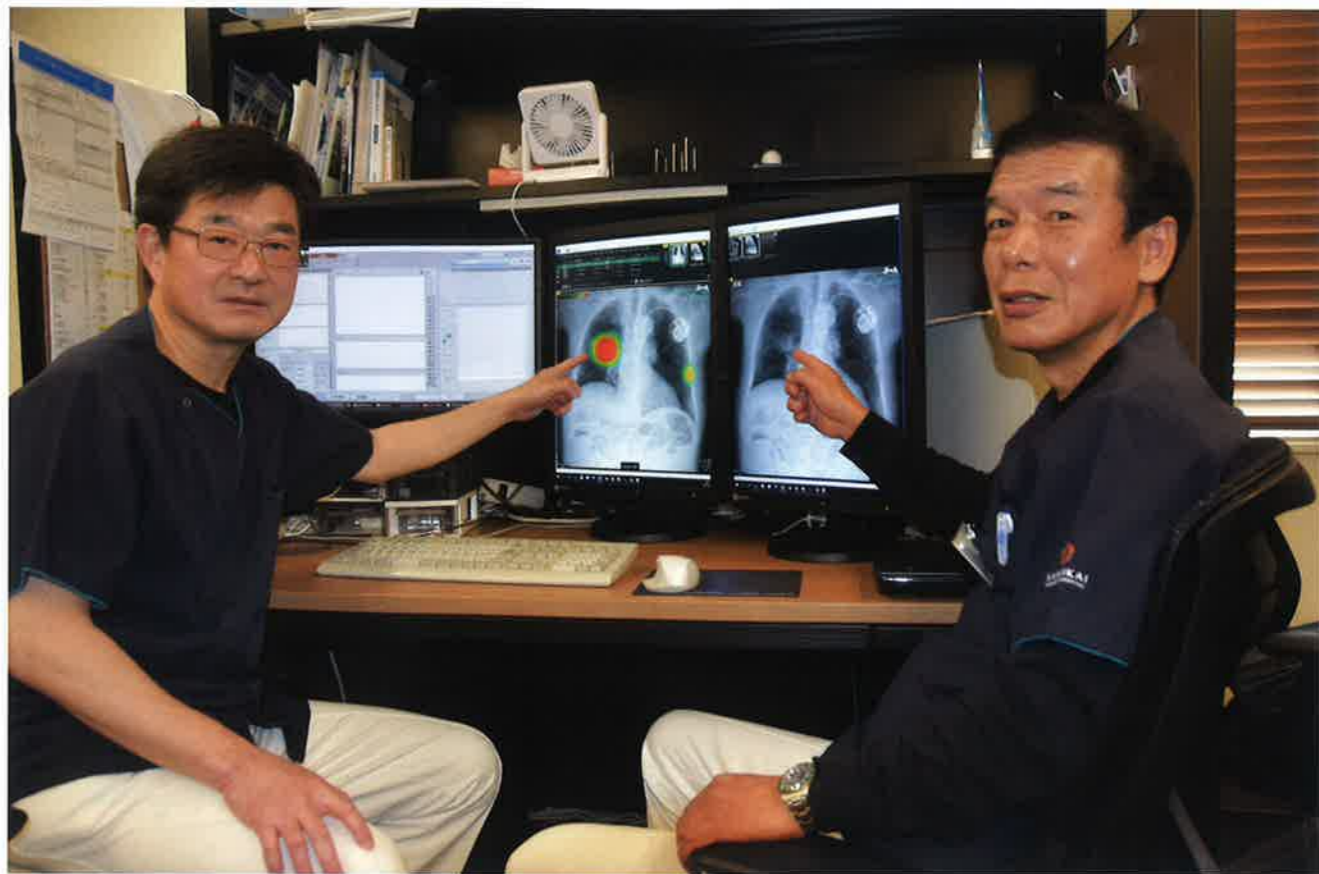
者として業務に精励した功績を認められ、厚生労働大臣表彰を受けました。
 介護職として勤務し32年、これだけ先駆的な取り組みを続けてこられたのは、「なんで? どうして? 見たい! 知りたい!」という、今も湧き上がる好奇心に助けられたためと改めて感慨深く思い返します。
 この喜びは、ながまち荘で苦



地域には診断や治療を受けていない認知症の人もいて、本人の困りごとが周囲の困りごととなり、地域包括支援センターなどに相談支援を求める事例も少なくありません。
 そうした事態をサポートすべく誕生したのがオレンジ相談会です。対象は、認知症を地域でサポートするケアマネジャーや地域包括支援センターのみならず

楽を共にしてきた仲間たちに感謝し分かち合いたいです。そして、これから長く済生会の施設に務めるであろう後輩職員には「好奇心もあなたの役に立つ」と伝えたいです。
 後日の朝礼で峯田幸悦施設長から賞状を受け取り、その重みを実感。そして「これからの賞に見合った行動を行なっていく」とみんなの前で固く誓いました。
 (介護主査 会田るみ)

た事例を診療にもつなげています。対応に悩んでいた地域の認知症関係者にとっても好評で、積極的に利用いただいています。
 (認知症看護認定看護師 山本公子)



AI (愛) のある病院へ前進

熊本病院

熊本病院は12月21日、画像AI診断装置(CXR-AID:胸部X線画像病変検出ソフトウェア)を導入しました。当装置は機械学習によって得られた人工知能(AI)により、胸部X線画像中の病変の可能性がある領域を色情報に変換し、画像で出力します。当院では結節・腫瘤影、浸潤影、気胸の画像を対象に、読影医が読影したあとの補助読影として活用。読影業務の負担軽減や読影精度の標準化、見逃しの防止に役立っています。
 導入に際しては、昨年6月に医師・放射線技師・システム部門スタッフの多職種のプロジェクトチームを発足。安全性や診断結果の位置づけ、シス



かわいいインタビュアー

大阪市立すみれ小学校の2年生5人が11月30日、生活科の授業の「町たんけん」のインタビュアーで来院しました。
 約東の時間に病院玄関で迎えると、一斉に「今日は町たんけん、よろしくお願ひします」と元気いっぱいにあいさつしてくれました。早速院内を案内。「看護師さんになって何が一番うれ

3年ぶりの災害訓練

コロナ禍で2020年から中止していた院内災害訓練を12月15日に実施し、職員73人が参加しました。
 訓練は①平日夜間に熊本県宇城市を震源とする震度6弱の地震発生②J-R三角線での脱線事故発生③の2パターン想定し、メンバーを入れ替えて二度実施しました。各部署から参加したスタッフは、当直・待機者、連絡を受けた参加者、訓練の記

〈大阪〉野江病院

「患者さん」にありがとうと言ってもらえることで」と回答すると、「そうなんです!」と笑顔で納得の表情の児童たち。
 数日後「ありがとうございました」「また行きたいです」というお礼の手紙が届き、私たちはほっこりした気持ちになりました。病院現場を取材し、地域のみなさんのためにたくさんの方々が働いているんだと感じ取ってもらえたようです。
 (副事務部長兼人事課長 金子大記)

〈熊本〉みすみ病院

〈東京〉 向島病院
**待望の職員専用売店が開店
 33% オフが魅力です**

向島病院では職員待望の院内売店が2カ月前にオープンしました。職員食堂の一部を利用した「職員専用無人売店」です。職員用の売店は要望が強く、施設内コンビニの事業者と交渉を続けてきましたが、なかなか実現にこぎ着けませんでした。そんな中で、塚田信廣院長と笠松英朗事務部長が「福利厚生を充実させたい」と強力に後押し。コロナ禍によるキャッシュレス決済の普及もあいまって、ついに「無人店舗」として開店できました。



中央の棚に設置しているのが無人決済システム

職員にとつてうれしいのは、福利厚生として商品代金の一部を病院が負担する仕組みで、市価の33%オフの特別割引です。さらに「巷で入手困難なヤクルト1000を常時在庫しているのもポイント。笠松事務部長は「愛飲してから睡眠の質がよくなったんだよ」と話しています（真偽のほどは……笑）。いまのところトラブルはゼロ。

職員用投書コーナーは感謝の声であふれています。

（済生記者 加藤建志）

〈神奈川県〉 横浜市南部病院
専門・認定看護師を目指す

当院の専門・認定看護師会は12月16日、専門・認定看護師、特定行為研修を目指すスタッフの支援を目的としたキャリアアップフェスティバル（略称キャリアフェス）を開催しました。コロナ禍で、対面で話す機会が減っているため、スタッフがキャリアアップを相談する場を用



意しようと企画したものです。

専門・認定看護師教育課程と特定行為研修のポスター展示、専門・認定看護師自身のキャリアマップ（資格取得までと資格取得後の活動など）のミニライブ、座談会を実施しました。7人の参加者は、「将来を考えると自分には厳しいかなと思っていたが頑張ろうと思えた」と前向きなコメントを述べました。

（看護部 菊地友紀）

〈三重〉 松阪総合病院
松阪警察署から感謝状

松阪総合病院は12月22日に松阪警察署で行なわれた贈呈式で、警察業務の推進に貢献したとして感謝状をいただきました。

当院は、積極的な防犯啓発活動を院内で行なったことや、松阪警察署関係者の健康管理を長年担ってきたことが大きく評価されました。

賞状と合わせて、三重県警察のシンボルマスコット・ミーポくんのぬいぐるみもいただきました。三重県の鳥・シロチドリをモデルにデザインした、とってもかわいいミーポくんは、病



院長室に飾っています。
 （済生記者 田端雄輔）

〈埼玉〉 加須病院
DMAT新隊員を訓練

加須病院は11月から12月にかけて、DMATの新隊員を訓練しました。

11月に行なったのは、緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練です。震度6強の地震が発生し、堤防崩落・道路損壊、付近にいた住民や釣り人が根固めブロック内に転落した場面を想定。傷病者の処置・観察と応急救護を訓練しました。

12月には埼玉県特別機動援



集合写真(左グループ新久喜総合病院、右グループ加須病院)

助隊DMAT参集訓練を実施。訓練の進行やシナリオは事前に知らせず、想定のみを付与する実践的なブラインド型訓練で行ないました。そのため通常訓練よりも高い危機意識で訓練に臨んだ新隊員は、迅速・確実・安全に行動する力を養えました。

（経営企画課 蓬田絵里子）

〈栃木〉 うつのみやなでしこ
つぼみ座がやってきた

保育園

うつのみやなでしこ保育園は、年明けに「おはなしキャラバン つぼみ座」さんを迎え、大勢で歌やパネルシアター、人形劇を楽しみました。

お正月にちなんだ歌や、手遊びなどの伝承遊びに親しみ、人形劇「くまのパン屋さん」ではみんなストーリーに入り込んでわくわくしました。

当園では通常保育のほか、朝夕は保育園で過ごし、昼間は幼稚園に通う連携保育も行なっています。連携保育の子は、冬休みなどで幼稚園が休みの期間は終日保育園で過ごすことになるため、当園はとてにぎやかにあります。今年も子どもたちの



想像力を広げ、情緒を育む保育活動をどんどん取り入れていく予定です。

（保育施設事務 福田 郁）

福井県済生会病院
**新立体駐車場が竣工
 集いの場としても期待**

11月27日に、関係者30人余臨席の下、新立体駐車場竣工式を催しました。

鉄骨造り6層7段の新立体駐車場は、従来の倍以上となる約400台を収容可能。快適性・利便性が高まり、患者さんをはじめとした来院者・住民のみなさんが気軽に立ち寄れる憩いの



祝 福井県済生会病院立体駐車場 竣工

場、情報が集まる場としての利用にも期待が高まります。式では、登谷大修院長が「屋根付きの駐車スペースが増え、降雪時にもいっそう安心して来院いただける。今後とも患者さんの立場を考えた病院運営を行なっていきたい」とあいさつ。テープカットと記念撮影を行ない、駐車場1階に整備した明るく居心地のよいバスの待合スペースや、調剤薬局などを見学して回りました。

（済生記者 吉川千恵）

熊本病院
患者の体にやさしい
低侵襲ロボット手術を推進

2016年6月に開始した「ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術（腹腔鏡下腎部分切除術）」が、1月11日に累計300症例に達しました。



スタッフ一同 ※撮影のためマスクを外しています

腎がんに対するロボット手術では、従来の腹腔鏡手術と比較して血流遮断時間が短く済み、術中・術後出血の減少が得られます。加えて精密かつ確実な腫

瘍切除・腎実質縫合、がんの取り残しが減少し、腎臓の機能をより温存できるのも特長です。ほかに昨年5月から、熊本県下で初めて「ロボット支援下根治的腎摘除術（全摘出）」も実施。さらには、前立腺がんに対するロボット手術が同9月に1500例を超えるなど、腎・泌尿器領域における低侵襲治療を推進しています。

ロボット手術の対象疾患の拡大が期待される中、当院ロボット・低侵襲手術センターは、体にやさしい低侵襲治療を患者さんに提供していきます。

（済生記者 東 賢剛）

（栃木）宇都宮病院
つなサポ連携会議に33施設

宇都宮市つながりサポト女性支援事業の協力団体連携会議（宇都宮市主催）が1月14日、宇都宮市男女共同参画推進センターで開催され、当院も参加しました。

身近な生活圏域で相談できる理用品を受け取れる「つなサポ相談室」は1月現在、市内63カ所（関係協力機関も含めると77カ所）に窓口があります。当日



はそのうちの33施設が参加。事業の実績報告などのほか、地域別・業種別のグループワークを行ないました。参加者は「異業種と交流・意見交換ができて視野が広がった」「連携を図っていく第一歩になった」「年に数回このような機会を作ってほしい」などと述べました。

ソーシャルインクルージョンの考えのもと、協力する団体同士の横のつながりを大切に、今後もシームレスな支援提供体制構築を目指していきます。

（地域連携課 秋山綾香）

静岡済生会総合病院
名大・芳川教授が講演
肺移植の現状を知る

名古屋大学呼吸器外科科学の芳川豊史教授による講演会「肺移植の実態とレシピエントのその後」肺がんと肺移植」を12月15日、当院講堂で開催しました。芳川教授は、昨年度当院が行



なった脳死下臓器移植提供時にメデイカルコンサルタントとして診察（2次評価）いただいたことや、昨年4月に赴任した呼吸器外科高橋耕治医師との縁があり実現しました。



芳川教授は、ロボット手術や胸腔鏡手術などの肺がん治療の現状や、日本の肺移植を解説。「日本臓器移植ネットワークの移植希望登録者は年々増加傾向だが、臓器移植を受けるレシピエントは平均3年の待機期間がある。その期間短縮のためにも、移植医療の体制を整える必要がある」と語りました。

講演後は活発な質疑応答が行なわれ、岡本好史病院長は「当院は今後も、臓器移植提供施設としての役割を果たしていきたい」と結びました。

（済生記者 酒井あい）

（埼玉）川口総合病院
インスタで「母親学級」開始

当院産婦人科のインスタグラムアカウント内で、昨年末から「母親学級」を始めました。母親学級や両親学級は出産前に産婦人科で受講していただきますが、この数年は、新型コロナウイルスの感染状況で中止・再開を繰り返す事態が続いています。楽しみにしていたのに参加できなかつた妊産婦さんも少なくなく、そのみなさんの不安を解

消し、少しでも安心して妊娠・出産期間を過ごしていただきたい——そんな思いから、産婦人科の酒井明美管理師長を中心に、栄養科・リハビリテーション科なども協力し、インスタグラムによる発信に踏み切りました。初投稿は、動画で「妊娠による身体の変化」を助産師の佐藤泰子さんが笑顔で分かりやすく説明していただきます。



（済生記者 原衣里奈）

（神奈川）神奈川県
身寄りなし問題研究会が
設立記念シンポジウム

済生会身寄りなし問題研究会は12月10日、設立記念シンポジウムを済生会本部でオンライン開催しました。

済生会の病院・高齢者施設・障害者関係・地域包括支援センターなど計184人のほか、福祉新聞・毎日新聞などのメディアや日本総合研究所、身寄りなし問題について先駆的に取り組む横須賀市などが参加しました。



基調講演でNPO法人つながる鹿児島の芝田淳理理事長が登壇。身寄りなし問題の構造や、同NPOの活動を語りました。続く特別講演は、超高齢社会の課題解決を行なう株式会社OAGライフサポートの黒澤史津乃氏。家族のあり方の変化や、身元保証会社の選び方についてレクチャーしました。さらに後半のトークセッションでは、（山形）特養ながま荘と熊本病院が現状を報告しました。各地域におけるガイドラインづくりなどに向け、有意義なシンポジウムとなりました。

（医療福祉相談室長 鎌村誠司）



神聖な米で作った縁起のいい餅を正月に食べると、神様の力を分けてもらえ、健康で長く暮らしていけるといいます。まず川嶋成乃亮総長と志手淳也院長が、職員みんなの健康を祈念し、最初に杵を振り下ろしました。続いて多職種が参加し、全6臼の餅をつきます。初めて杵を持ったというスタッフも多く、動画や写真を撮りながら「よい経験ができた」と楽しみました。つきたての餅は食べやすいサイズに丸めて、あんこやきなこと一緒にパック詰め。参加でき



に当院テラスで開催し、職員約240人が参加しました。



つながりつくる年賀状

〈山形〉老健フローラさいせい

12月上旬から年末にかけて、利用者さんと介護スタッフで年賀状をつくりました。夫や妻、子ども施設にいる友人など、利用者さんそれぞれに送り先を決めています。相手を思いながら千支のうさぎの塗り絵を描いたり、正月スタンプで色とりどりに飾りつけた

なかったスタッフの分も持ち帰ってもらい、あつという間に品切れとなりました。
〔済生記者 鈴木亜希乃〕

だんご木は、山形県で古くから行なわれていた伝統行事です。利用者さんは、縁起物のえびす・大黒・千両箱・宝船・小判・鯛などをかたどった「ふなせんべい」をミズキの木に飾り、家内安全・無病息災・火難除け



だんご木飾りに願いをこめて

季節の行事を大切にするデイサービスセンター

1小白川は1月9日、小正月に向けてだんご木飾りの準備をしました。

り、楽しく作業しました。年賀状が届いた家族からは好反応。「ここまで字が書けるようになっているとは驚きました」「デジタル化が進む中で、手書き文字の温かさが母の文から伝わってきた」。五穀豊穡などを祈願。私たちも、利用者さんが元気で穏やかに生活できるよう願いました。
〔済生記者 岩城多香代〕

ら伝わってきた」。人のつながりが制限されるコロナ禍の今だからこそ、人とのつながりを感じられる取り組みをしてきたいと思いました。
〔済生記者 岩城伸幸〕



川口警察署から感謝状 毎月の交通安全推進活動で

〈埼玉〉川口総合病院

川口総合病院は11月28日、埼玉県川口警察署長から感謝状をいただきました。地域の良好な治安維持の確立に協力したことが評価されたものです。

当院は毎月10日の「自転車安全利用の日」に、櫻井雅彦安全担当部長を中心に警察と協力し

て、交通安全・事故防止のパンフレットやノベルティを外来ロビーで配布しています。1月10日も「自転車の事故が増えています。反射シールを利用するなどし、事故防止にご協力ください。今年4月からは、すべての

地震に備える防災訓練

東神奈川リハビリテーション病院

東神奈川リハビリテーション病院は11月14日、地震発生を想定し防災訓練を行いました。今回は、地震発生時の入院患者さんの人数確



自転車利用者に乗車用ヘルメットの着用が努力義務になります」と、患者さんについていねいに声をかけて回る川口署員の姿がありました。

当院はこれからも警察活動を支援するなど、良好な治安維持の確立に尽力していきます。
〔済生記者 原里里奈〕

認、職員の出勤者数確認、けがの有無の把握を重点目標としました。また、ヘルメットや非常用持ち出し袋の置き場所なども再確認しました。訓練を終え、慌てずに対応できた部分とできなかった部分があることに気づきました。災害時は平常心で対応できるように備えていきます。
〔済生記者 佐藤貴啓〕

令和4年度は7人 三重県済生会職員表彰

〈三重〉松阪総合病院

令和4年度三重県済生会職員表彰の表彰式を11月12日に行ない7人を表彰しました。

この表彰制度は職員の人材育成と褒める文化の醸成が目的で、令和3年度から実施しています。表彰分野は、学術功労賞・業務奨励賞・善行賞・特別功労賞の4部門。今年度はこのうち学術功労賞と業務奨励賞の二つで該当者が出ました。

学術功労賞は職務に関し特に有益な研究を行なった職員に、業務奨励賞は職務に忠実に精励し成績優秀な職員または合理化や経費削減に貢献があった職員



に与えられます。

受賞者代表は「このような賞をいただき非常に光栄です。今後も今まで以上に邁進してまいります」と満面の笑みでコメントしました。
〔済生記者 田端雄輔〕

みんな健康でよい年に!! 240人で新年の餅つき

〈大阪〉中津医療福祉センター

新年の餅つき大会を1月5日



topics

聖なるコンサート

5階療養病棟のデイルームで、

〈山口〉豊浦病院

をプレゼントして回りました。突然現れたサンタに驚いて泣き出したり、まじまじと見つめたりする子どもたちを、ご家族がなだめる場面もありました。「病気と闘う中でもどうかすてきなクリスマスになりますように」と、家族も病棟スタッフもサンタたちも祈りました。

〈医事課 窪田里奈〉



よくなりますように」と声かけしながら、ミニオンの食器と保育士手作りのクリスマスカード



12月14日にクリスマスコンサートを行いました。コロナ禍で面会制限が続く中、入院患者さんに少しでも季節感のある催し物をと病棟スタッフが一昨年企画し、二度目の開催です。まずはサンタの衣装の看護師と看護師長が、終業後に一生懸命練習したハンドベルで「きよ

入所も通所もクリスマスイオンからプレゼントも

〈大阪〉ふくろうの杜

ふくろうの杜では12月の恒例行事クリスマス会を、17日に入所者さんと、22日には通所者さんと楽しみました。

入所担当の生活支援一課は、緑日のスパーボールすくいを模したお菓子のつかみ取りゲームやクレープバイキングを企画。入所者さんは、専用容器に敷き詰められたお菓子を目を輝かせ、大量獲得にチャレンジ。クレープバイキングでは各自で調理し味わいました。

入所者さんには色鉛筆と画用

紙のセットをプレゼント。これはイオン大阪ドームシティ店の竹鼻正幸店長のご厚意で、2014年から続いています。

通所担当の二課は、サンタに扮した町原誠治施設長サンタからのプレゼントや、昼食でクリスマス会用弁当のほか、たくさん



紙のセットをプレゼント。これはイオン大阪ドームシティ店の竹鼻正幸店長のご厚意で、2014年から続いています。

通所担当の二課は、サンタに扮した町原誠治施設長サンタからのプレゼントや、昼食でクリスマス会用弁当のほか、たくさん

紙のセットをプレゼント。これはイオン大阪ドームシティ店の竹鼻正幸店長のご厚意で、2014年から続いています。

通所担当の二課は、サンタに扮した町原誠治施設長サンタからのプレゼントや、昼食でクリスマス会用弁当のほか、たくさん



topics

餅つきと鏡餅作り

〈山形〉特養やまのべ荘

年末恒例の餅つきと鏡餅作りを12月28日に行ないました。餅つきでは「よいしょ!」「それっ!」と、みなさん勢いよく杵を振り下ろしました。つき終わると、鏡餅作りへ。「うまくできねえ」と熱心に手を動かす中で、「誰かのお尻みたいだな」と冗談も飛び出し、みんな楽しく作業しました。その後、職員がお汁粉をふるまうと「甘くてうまい」と大好評。笑顔広がる楽しいひと時となりました。



鏡餅は施設内の各ホールに飾

り、無病息災と健康を祈願しました。

〈済生記者 大滝美結〉

卯年の幸せを祈る絵馬

〈新潟〉特養長和園

新年の三条市デイサービスは4日からサービスを開始し、毎日30人ほどに利用いただいています。

利用者さんには、卯年の願



事をうさぎの絵馬に書いてもらい、職員手製の赤い鳥居の周りに貼り出して、新しい年の幸せを祈願しました。「明るく元気にすごしたいね。人生、山あり谷あり」「しあわ

ちやまちクラブから17回目のプレゼント

〈大阪〉特養喜久寿苑

大阪東淀ちやまちロータリークラブから12月5日に、クリスマスプレゼントとしてセンサーマット・介護リフト用シート・電動空気入れをいただきました。17回目のご厚意で、岡田仁志苑長から感謝状を贈りました。この日は、同クラブの定例会が当苑の近隣ホテルで行なわれ、ゲストとして招待された岡田苑長が、4月に移転予定の喜久寿苑新施設をプレゼンテーション。終了後に徒歩で帰苑し、クリスマスプレゼント寄贈式を実施しました。

毎年、利用者さんが喜ぶプレ

今年はホワイトクリスマス

〈奈良〉中和病院

一面雪景色となった12月23日の昼下がり、子どもたちが入院する南3階病棟に、プレゼント入りの袋を背負ったサンタとトナカイがやってきました。真っ白なひげが立派なサンタの正体は中島祥介院長、トナカイは松田一希研修医です。病棟スタッフの鈴の音に合わせて病室を訪ね、「早く病気が



ゼントをありがとうございます。(生活相談員 浅田桂造)



〔栃木〕宇都宮病院 3年ぶりのクリスマス会

緩和ケア病棟で3年ぶりのクリスマス会を12月22日に開催しました。

会場のダイニングを飾り付け、スタッフはサンタなどに扮して準備万端。音楽療法を行なう金子悦子さんをお迎えし、電子ピアノで「もろびとこぞりて」「きよしこの夜」などのクリスマスソングを演奏いただき、緩和ケア科・粕田晴之医師もハーモニ



カを吹いて、大いに盛り上がりました。

演奏にじっくり聴き入ったり、手持ちの鈴でリズムをとったり、患者さんはそれぞれに楽しめました。「普段は部屋で過ごすから、みなさんに会えてうれしかった」「鈴を一緒に鳴らして一つになれた」と喜びの声をたくさんいただきました。

その後、患者さん一人ひとりと病棟スタッフで写真を撮り、クリスマスカードにしてお渡ししました。

（済生記者 川原彩花）

〔山形〕はやぶさ保育園 サンタさんきた！

はやぶさ保育園では12月23日に、クラスごとにクリスマス会を行ないました。

はやぶさ（5歳児25人）では、みんなで手作りしたサンタやトナカイの被り物をつけて、フルーツパセットのゲームに「メリクリスマス」の掛け声も取り入れ盛り上がりました。

べがさす（4歳児24人）では、クリスマス曲に合わせて椅子取りゲームをしたり、「あわてんぼうのサンタクロース」の歌



でかわいいダンスをしたりして楽しみました。

そして園内に設けた「サンタの部屋」にサンタさんがやってきて、代わるがわるの対面。ちょっぴり緊張しながら「どこからきたの？」「すきな食べ物は何？」「質問し、プレゼントをもらおうと「ありがとう」と笑顔でお礼を言いました。

（済生記者 黒田真美）

静岡済生会総合病院 聖光学院からの贈り物

静岡聖光学院中学校・高等学校



校の生徒から12月23日にクリスマスカードが届きました。同校はカトリックのミッション校。クリスマスをとっても大切に、地域の福祉施設や保育園などを訪問して交流・支援する活動を続けています。

この交流は、コロナ禍となり直接会うことができなくなった3年前にさかのぼります。「昼

夜問わず懸命に働く医療従事者のみなさんに、感謝とエールをお伝えしたい」「みなさんが少しでも、ほっこりと明るい気持ちになるように」と、生徒一人ひとりが一つずつ手書きしたメッセージやイラスト入りのカードを届けてくれたのです。

この日届いたカードには「毎

日お疲れさまです」「がんばってください」などのメッセージが記され、私たちを励ましてくれました。

（済生記者 酒井あい）

〔福岡〕飯塚嘉穂病院 緩和ケア病棟のクリスマス

12月23日に緩和ケア病棟で、院内音楽バンド K's Music Clubの喜多良晴主任作業療法士（ユーフォニアム）と三石敬之副院長（トロンボーン）のクリスマス演奏会を開きました。

「雪の華」や「You Raise Me Up」など4曲を演奏。美しい音色が病棟内に響き渡り、演奏が終わると患者さんから拍手をいただきました。



（済生記者 本倉美穂）

イに扮した医師らの病室訪問も行なって、患者さんは大喜びでした。療養生活の中で、季節の移り変わりを感じてもらえるようこれからも努めていきます。

（済生記者 春口勇介）

〔愛媛〕今治病院 笑顔のダブルクリスマス会

12月22日になでしこ保育所で、23日には緩和ケア病棟でクリスマス会を行いました。

保育所のクリスマス会では、保育士がキャンドルサービスとベルの演奏を披露。子どもたちはツッシュ・ユー・ア・メリクリス



〔神奈川〕わかさ保育園 クリスマスイル・クリスマス

2022年を締めくくるイベントで、みんなを笑顔にさせる「Christ smile」（クリスマスイル）を企画し、12月21～24日はクリスマスのお楽しみいっぱい園舎3階を開放しました。

園児の作品を展示し、折り紙・わなげなどのプレイルームも用意した会場には、園児の家族やご近所さん計161人が来園。親子で会話しながら作品を見て、のんびり遊んだり、気忙しい

（済生記者 日野美華）

い年末にホッと一息つける時間を過ごしていただけました。

園庭にある「つながりのシン



ボル・びわの木」が寿命を迎えた今年は、最後の飾りつけをしました。会場にも「サンキューBIWANOKI」コーナーを設置。思い出の写真と来園者のありがとうメッセージであふれました。

元気な頃のびわの木の写真を見ていまとの違いに驚く人や、保育園時代を懐かしむ卒園児家族の様子が印象的でした。

（済生記者 本倉美穂）



東神奈川

リハビリテーション病院

かなっこのクリスマス

院内保育所かなっこ保育室の子ども8人・職員4人で12月20日にクリスマス会を行ないました。

みんなでサンタの帽子をかぶ



ったり、トナカイのカチューシヤなどを身につけたりして、クリスマスモードを演出。「まっほっくり」を歌ったり、ペーパーサート(紙の人形劇)「ノントナ」のといのとんでけ☆」を鑑賞したりしました。

コロナ禍のため規模を縮小して行ないましたが、子どもたちはとても楽しそうで、笑顔がかわいかったです。

(済生記者 佐藤貴啓)

福井県済生会病院

膝の上に乗りたい!!

院内保育所ほっかぼか園に12月23日、サンタに扮した笠原善郎副院長がやって来ました。

1日早いサンタさんの登場に「わあーサンタさんどこからきたの?」と驚き大喜びする子どもたち。サンタさんのやさしい笑顔を見て安心したみんなは、順番にプレゼントをもらってニ



ツコリ。

記念写真では「膝の上に乗りたい」と奪い合いになるほど、人気者となったサンタさん。お別れするときも「サンタさん、どうやってかえるの?」と、寂しそうに聞く子どもたちがとってまわかったのです。来年もまた来てね、サンタさん。

(保育士 森岡美保子)

〈埼玉〉加須病院

樋口医師・金子看護師から患者さんへ笑顔の贈り物

加須病院はクリスマス時期に合わせて、クリスマスソングの動画が見られるカードを、入院患者さんと外来化学療法法の患者さんに配布しました。

「音楽を通して、患者さんに少しでも笑顔になってほしい」と、内科の樋口雅樹医師を中心に企画。カードのQRコードをスマホで読み取ると、スマホで動画が見られます。

肝心のコンテンツは、樋口医師が大学時代から参加する慈恵ゴスペルクリスマスコンサート映像に加え、サンタの樋口医師とトナカイの看護師・金子京子課長からのクリスマスメッセージ



みなさん、こんにちは

ージで構成しました。

かわいいサンタのイラストを入れたカードのデザインも患者さんや職員から好評で、院内でプチ盛り上がりしました。動画の再生回数は300回を超え、音楽を通してたくさんの患者さんに笑顔を届けられました。

(経営企画課 蓬田絵里子)

〈岩手〉陸前高田診療所

神出鬼没のサンタさん

「診察室にサンタさんがいてね、プレゼントまでもらっちゃったの」と、12月10日に整形外科を受診した患者さんが笑顔で帰っていききました。

この日の整形外科は、長野県

〈山口〉下関総合病院

ピカピカきれい

下関総合病院の12月は、あちこちにクリスマスツリーが現れてにぎやかでした。

正面玄関ロビーでは、天井に届くほど大きなクリスマスツリーが来院者の目を魅きませました。小児科病棟では、スタッフルームの前にクリスマスツリーを設置し、子どもも大人も足を止めて眺めていました。その様



子を取材していると、検査に向かう途中の患児が「ピカピカきれい」とクリスマス飾りに触れる光景に出合いました。

患者さんや来院者さんに、癒やしを感じてもらえる季節の催しを今後も継続していきます。

(済生記者 下村桂子)

長崎病院
サンタさんに大泣き!?

当院託児所で12月21日にクリスマス会を行いました。

「上手に、より楽しく」を大切に歌も演奏もダンスも練習を頑張り、ドキドキの本番も泣かず

(済生記者 三尾恭子)

長崎病院

サンタさんに大泣き!?

朝の東北新幹線でサンタクロースを目撃した乗客かもしれません。「前泊した仙台のホテルで着替えて新幹線へ来た。周りの視線なんて気にしてられないです。すよ(武内先生)というのです。診察後はスーツに着替えてお帰りにになりました(笑)。

でも一番ビックリしたのは、朝の東北新幹線でサンタクロースを目撃した乗客かもしれません。「前泊した仙台のホテルで着替えて新幹線へ来た。周りの視線なんて気にしてられないです。すよ(武内先生)というのです。診察後はスーツに着替えてお帰りにになりました(笑)。

武内サンタさん、今年も来てくれてありがとうございます。来年もまた来てくださいな。

(済生記者 三尾恭子)



にニコニコ笑顔だった0歳児。いつもと違う雰囲気や衣装が嫌で泣く子と、終始笑顔でノリノリの子に分かれた1歳児。ちよっぴり緊張気味の2歳児。そんな中、サンタが登場するとほとんどの子が大泣きで逃げいき、サンタさんは少し寂しそ

うでした。

それでも最後は「たのしかったね」「がんばった」と、笑顔の子どもたち。個性が光り成長を感じられたことが、私たち保育士にとっての最高のクリスマスプレゼントになりました。

(済生会託児所 保育士

森橋夏波)



ソングを歌っていましたが、今年には感染対策に配慮し、歌は取りやめ職員がハンドベル演奏に挑戦しました。
業務の都合などで本番直前にメンバーチェンジするハプニングにもめげず、仕事の合間を縫



**香川県済生会病院
病棟へクリスマスをお届け**
香川県済生会病院は12月22日、3年ぶりのクリスマスコンサートを行いました。コロナ禍以前は職員20人ほどでクリスマス

《熊本》児童発達支援センター
済生会なでしこ園
カードと玩具のプレゼント
なでしこ園は12月22日、コロナ禍で断念したクリスマスパーティーの代わりに、園児にすてきなクリスマスカードと玩具をプレゼントしました。
プレゼントは、保護者と熊本県地域生活定着支援センターの職員が、一つひとつ心を込めて作ってくれました。保護者は各家庭で、サンタクロースをイメージした玩具（中には鈴が入っていて、揺らすときれいな音がします）と、開くとツリーが浮き上がる楽しい仕掛けのクリスマスカードを作成。



地域生活定着支援センター職員も、折り紙のトナカイとかわいいサンタが表紙のカードを届けてくれました。こちらも開くとツリーが飛び出すなど、動きのあるカードでした。
園児は、保護者や職員の愛情いっぱいカードを大切に持ち帰ってくれました。
(事務員 岩下かすみ)

《神奈川》若草病院
院内デイケアで作品づくり
若草病院では在宅復帰の準備の一環で、離床を促し単調になりがちな入院生活にメリハリをつける目的で院内デイケアを実



現在では感染対策で4病棟のうち1病棟のみの限定開催ですが、夜間不眠が軽減したなどの効果が出ており、ゆくゆくは全病棟で取り組む計画です。患者さんが笑顔で過ごせる時間を増やしたい。さらに工夫していきたい。
(済生記者 高木裕子)

施しています。
始めたのは昨年5月。看護部を中心に、毎週月曜日にわらべ歌や美空ひばりさんの懐メロをBGMで流しながら季節に応じた作品づくりをしています。12月はクリスマステーマにした合作に挑戦し、患者さんの部



**静岡済生会総合病院
ドクター・サンタ現る**
小児科外来・NICU病棟・北4病棟に12月23日、サンタク

ロースがやって来ました。
外来では、来院した子どもたちに手作りのクリスマスカードをプレゼント。病棟ではクリスマスソングが流れる中、大きな袋を持って病室を訪問。プレゼントと一緒にサンタクロースのバルーンアートやメダルも渡し、「治療がんばったねー」と声をかけて回りました。
このサンタの正体は医師で、クリスマスを病院で過ごす子どもたちに少しでも楽しい思いを届けたいと、小児科スタッフを中心に毎年行なっています。
突然のサンタの訪問に子どもたちはびっくりしながらも、うれしそうにプレゼントを受け取ってくれました。その笑顔に私たちスタッフは癒やされ元気をもらい、病院はクリスマスのかいムードに包まれました。
(済生記者 酒井あい)

**東神奈川リハビリテーション病院
一足早いクリスマス**
東神奈川リハビリテーション病院は12月21日、院内でクリスマス会を開きました。
クリスマスソングが流れる中、



サンタの帽子やトナカイの角のカチューシャを付けた医師・看護師・セラピストが、病棟や通所リハビリテーションを巡回。おのおのがメッセージを書いたクリスマスカードを、患者さんに手渡しました。
カードを読み喜ぶ、患者さんの笑顔がたくさん見られました。
(済生記者 佐藤貴啓)



少しでも笑顔を届けるため、このイベントを続けています。今年も研修医がサンタや動物のキャラクターの着ぐるみをまとい、短時間ですが部屋を訪ねて、直接プレゼントを渡しました。
子どもたちにはマグカップと人気キャラクターの絵本を、お母さんたちには衛生用品の詰め合わせをプレゼント。ささやかな品ですが、「入院中にクリスマスプレゼントをもらえるとは思っていませんでした」と驚き、喜んでいただけました。
(済生記者 西澤真由美)



〈愛媛〉小田老健ふじの園 女性職員の熱戦で大笑い

利用者さん・職員総勢60人で
12月15日に、恒例のクリスマス



中でも盛り上がったのが腕相撲大会。サッカー選手やお相撲さん、女子高生やおじいさんなどの仮装で登場した参加者は、付度なしのガチンコ勝負。思わず熱戦の連続に、見ているほうも力が入り「頑張れ!」という声援が自然と沸き起こり、おなかの底から笑いました。

コロナ禍で今年もご家族の参加はかたやいませんでしたが、来年こそは楽しい時間をみんなで過ごせるようにと願っています。
(介護福祉士 谷本佳男)



日にクリスマスマーケットを開催しました。

会場のプレイルームは、クリスマスツリーや紙飾りで楽しい雰囲気。いろんな味のジュースや人所児者さんの名前を書いた靴下飾りも用意しました。

まずは昨夏から秋にかけてサルビアでの思い出を振り返る動画を鑑賞。そこへお待ちかねの青い目をしたサンタクロースがやって来ました。認定 NPO 法人難病のこども支援全国ネットワークの交流活動のサンタです。

「Merry Christmas」の掛け声でプレゼントを渡された入所児者さんに笑顔が広がりました。
(済生記者 本倉美穂)

た。
(済生記者 荒木愛美)

〈愛媛〉松山病院 院長サンタがやってきた

松山病院内保育所に12月20日、一足早くクリスマスがやって来ました。

子どもたちがリズムに合わせて「赤鼻のトナカイ」や「ジングルベル」などを愛らしく歌った。



していると、突然の「メリクリスマス」の声とともに、サンタクロースとトナカイが登場。驚きのあまり目をパチパチさせながらじっとサンタを見つめていた。

忘年会を楽しみました。
今年はプレゼントの配布、全女性職員による腕相撲大会、プロ野球・日本ハムファイターズの「きつねダンス」など、さまざまな催しを用意。

〈神奈川〉横浜市東部病院 青い目のサンタ

当院に併設する重症心身障害児(者)施設サルビアで12月21

たり、キラキラした笑顔で小さな手をたたいたりして喜ぶみんな。たくさんのプレゼントが入った大きな白い袋を背負って現れたサンタは、宮岡弘明院長です。

「サンタさんのおうちはどこですか?」「どこまでどうやってきたの?」と矢継ぎ早に質問する子どもたち。お待ちかねのプレゼントをもらいにつこり笑顔が並びました。
(済生記者 酒井千夏)



〈神奈川〉わかさ保育園 ちいさなクリスマス物語

12月19〜24日の6日間、クリスマス満喫するお楽しみ企画で連日盛り上がりました。
いつもの散歩もサンタ帽子をかぶって出かけると、子どもたちにとってはクリスマスの特別なひとときになります。道すがら

ら出会った地域の人に「メリクリスマス」と元気にあいさつし保育園のクリスマスカードを渡すと、みなさんびっくりにっこりしてくれました。
そんなかわいいちびっこサンタのサプライズに心動かされたのか、年配の女性が「うれしかったからお礼に」とカレンダーを持ってきてくれました。子どもたちの笑顔が紡いでく

〈広島〉老健はまな荘 サンタはOK!

12月21日、はまな荘にサンタと2匹のトナカイがやってきて、5階療養棟でクリスマス会を催しました。サンタは利用者さんの名前を一人ひとり呼びながら、プレゼントを手渡ししてくれました。

サンタの正体は、隅井浩治施設長です。前支部長の隅井先生にお願いしてもよいのかと、担当職員は企画段階から悩みましたが「OK」と即答でした。
イベント後、隅井施設長に感想を聞きました。

「利用者さんの笑顔が見られとてもよかったです。生活に変化をつけるためのレクリエーションは



いきたい。30年以上前にもサンタになったことはあるが、よく覚えていないよ」と、少し照れながら語ってくれました。
(済生記者 佐藤 聡)

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください。

長崎病院をおいしくPR!

「なにか、おいしく食べられるノベルティグッズがつかれないかな」と、以前から考えていたおいしいしん坊な

があり、「これはチャンス」とひらめいたのがコレです。
長崎銘菓の和菓子で、文明堂総本店の「三笠山」(いわゆる、とら焼きです)に SAISEIKAI NAGASAKI の病院名とまでこの紋章を焼き印した「特製三笠山」です。おい

しそうですよ? SWSの受講者やスタッフおの先生方にお配りすると「病院をおいしくアピールできていいね!」病院に持って帰ってみんなに自慢しようっと!とお褒めの言葉をたくさんいただきました。こんなに好評な

ので、これからも当院の説明会などで配布していこうかなと考えています（写真のモデルは当院総務課・大川七海さん）。

（長崎病院 済生記者 平川幸子）
★なでしこの紋章も品が良くてとてもステキ。食べるのが惜しくなる、いやいやペロリと食べちゃうなあ！（口福につぼん 吉井省一）



がんばって済生会！

自然豊かな陸前高田診療所には季節ごとに野生動物が遊びに来ます。春は駐車場を駆け回るパンビ、車のエンジンルームに営巣する白鶴、庭に穴を掘るタヌキなどが見られます。冬も、近くの清流・気仙川に越冬のため白鳥が飛来します。

昨夏も、診察待ちの患者さんが「ま何か入って来たよ」というので、

合を繰り返しました。

江端院長は2021年と22年のシニアフェスタ剣道大会個人戦で2年連続ベスト8の実力が買われ代表に選抜。本大会直前の強化試合で調子が上がらず、残念ながら本戦出場はかたやありませんでしたが、優勝は格別と次のように語ります。

「全国優勝は私にとって初めてのこ



とで、大会に向けた5カ月間の努力が実を結んだと感動し涙が出ました。指導いただいた諸先生、チームメイト、大会の関係者の皆様には感謝の言葉しかありません。もちろん本業もきちんとやっておりますので、済生会本部・病院長会・神奈川県支部・当院の皆様には誤解のない



夏の常連ハチだなどハエたたきを手に向かうと、6センチほどの黒い何かが。近づくと、ひらひらと優雅にテラスへ飛びました。

「クローアゲハ？」と思い、よく見ると全身真っ黒なトンボでした。先輩の患者さんたちも見たことがないといい、調べるとカワトンボ科のハグロトンボで、別名「神様トンボ」。トンボは昔から縁起がよい「勝ち虫」とされ、戦国武将の前田利家はかぶと飾りにしていたほどです。

ようお願い申し上げます」

地元・神奈川県内の各チームは強化練習の成果を存分に発揮し、3位にも神奈川県Bチームと横浜市Aチームの2チームが入る好成績を収めました。

（横浜市・東神奈川リハビリテーション病院 済生記者 佐藤貴啓）

★誤解どころか全国優勝メンバーの一人ですから、むしろ済生会ブランド力が高まると思います。（本部広報室 河内淳史）

現場の笑顔を届けたい！

「コロナ禍が続く中、少しでも明るい話題を提供しよう」と、昨年度から広報委員会がフォトコンテストを始めました。

応募テーマは「県内の風景写真」と「職場内の人物写真」の二つで、



コロナ禍の過酷な状況で、気を抜かず頑張り続ける全国の済生会人のみなさまへ、陸前高田から神様トンボの福が飛んでいきますように。「がんばって済生会」。

（岩手・陸前高田診療所）

済生記者 三尾恭子

★自然豊かな診療所にはいろんな動物が訪れるのですね。縁起がよい神様トンボに私もあやかりたい！

（メデイカル・リーフ 平山果奈）

病院を明るく照らす贈り物

クリスマスの直前の12月21日に、地域のみなさんが「医療従事者を応援したい」と、手作りのイルミネーションを二つ届けてくれました。木枠の中にハートをかたどったLEDがあり、電源を入れると鮮やかな緑



色に光ります。

多くの来館者に見てもらえるようにと、正面玄関の近くと、病棟1階エレベーターホール付近に設置しました。明るく目立つため、院内を案内する際の目印としても大活躍しています。

作者はこのイルミネーションを地域のさまざまな施設に贈っているとのこと。「そういえば温泉施設に同じものがあつたよ！」と職員から聞きました。

地域のみなさまのおかげで、当院はもうすぐ20周年を迎えます。これからも期待に応えられるよう職員一同まい進していきます。

（熊本・みすみ病院）

済生記者 松橋麻紀

★あちこちで輝くこのイルミネーションは、地域を明るく結ぶシンボルですね。

（メデイカル・リーフ 原澤一也）

江端院長が全国優勝！

東神奈川リハビリテーション病院の江端広樹院長が「ねんりんピック」かながわ2022剣道交流大会」に神奈川県Aチームの一員として出場し、見事、全国優勝を果たしました。同大会は11月13・14日に伊勢原市体育館で開催され、全国から集まった60歳以上のシニア剣士が白熱した試



も看護師も事務部も各所でさまざまな仕事をしていますが「みな仲間」ということが一番大事。仲間をどんどん増やしていきたい、この病院の文化を守りながら、若い視点でよりよい病院に変えていってください。期待しています」という祝辞とともに、記念品を贈りました。

二十歳の2人は、「同じ年代の職員は少ないけれど、このような会を開いてもらいうれしい。両親にも伝えたい」と笑顔で語ってくれました。

(福井県済生会病院)

済生記者 吉川千恵

★二十歳おめでとうございます！
バルーンの装飾かわいいですね、みなさんの笑顔もすてきです。
(メディカル・リーフ 平山果奈)

息子の焼き芋と、ぼくの豆知識

「ぼくが学校で育てたんだよ」と、息子が先日サツマイモを持ち帰って



きました。寒い冬にはやっぱり焼き芋と、さっそく準備開始！

焦げないように、まずは水で濡らしたキッチンペーパーを巻き付け、その上からアルミホイルで二重に包みます。それを手に、庭で息子と薪

割りをして、いざ着火。

満遍なく火が通るように時折ひっくり返しながらいよいよ完成！

あつあつを頬張ると、蜜たっぶりでもっとも甘くておいしかったです。息子も大満足でした。

ここでサツマイモの豆知識を。どろんどろん生えてくる芋づる（地上に伸びた茎）も食べられるので、家庭で育てるとおいしさ2倍なんです。それから、収穫したてのサツマイモは甘くないので、しっかりと冷暗所で寝かせるのがポイント。でんぶんが増え、甘みが増しておいしくなりますよ。

(福岡・飯塚嘉穂病院)

済生記者 春口勇介

★親子のエピソードでほっこりし、役立つうちくも読めるこの記事も、一粒で二度おいしいです。
(メディカル・リーフ 原澤一也)

フライトナースになるぞ

滋賀県病院の看護師・筒井美穂さんは、フライトナースを目指して研修に奮闘中です。

フライトナースとは、ドクターへりに搭乗する看護師のこと。公的資格ではなく、基地病院の当院が独自に定めた基準で認定しています。具体的には、「看護師経験5年以上、救急看護(救命救急センター)外来・病

ナーが体調不良になり救助するハブニングもありました。
蓄積疲労で脚が前に出にくくなった後半は、沿道の応援に背中を押してもらい無事にゴール。私以外の参加者も全員が完走できました。健康的に運動できるすばらしさ・感謝・感動を広く伝えていきたい、そう思った私の初マラソンでした。
(三重・明和病院 理学療法士 大北裕紀)

★完走おめでとうございます。道中の声援での感動もハブニングもあつたことですが、体もかなりの酷使だったと思います。でもこの体験全てがうらやましいです。
(印刷担当 榎白橋 茂野洋二)

わが家が一番

12月23日に大雪が降り積もった当地。筆者は帰宅困難となり、小田診療所に一泊しました。

天候が回復した翌日午後に自宅に向かいましたが、中間地点で車が立ち往生。「徒歩で帰ろう」と決意し、車を降りました。そこは民家のない寂しい峠越えの道で、自宅までは15キロメートルほど。時に雪で足を滑らし、時にスタックした車の脱出を手助けし、時に行き交う車から怪訝な眼差しを浴び……峠のトンネルでは突然、野犬の遠吠えが聞こえ、逃



げ場のない中で命の危険も感じました(実際は車中の飼犬の声でした)。上り下りの雪道に苦戦すること4時間、日も暮れた頃にようやく家族が迎えに来てくれた待ち合わせ場所に到着。涙ならぬ鼻水の止まらない再会を果たし、2日ぶりにたどりついたわが家はとっても温かくて、記憶に残るクリスマススイブとなりました。
(愛媛・小田診療所)

(愛媛・小田診療所)

済生記者 福岡博実

★愛媛でドカ雪とは大変でした。災い転じた、あつたかホワイトクリスマス。きつと、語り継ぎますね。
(本部広報室 山内 敦)

病棟経験が生きた出来事

年明けに家族と出かけたショッピング



棟、ICU)経験を3年以上有することや、救急に関する外部研修や院内のドクターカー・ドクターヘリ研修の修了など多くの条件を満たす必要があります。

筒井さんは、「院内の救急部門でさまざまな経験を積むことができたからこそ、スタッフとの信頼感もあり、いざというときも安心して当院に患者さんを搬送できます。早く一人前のフライトナースになれるよう、先輩たちから多くを学びたい」と意気込みを語ってくれました。

筒井さんの今後の活躍が楽しみです。
頑張り、筒井さん！
(滋賀県病院 済生記者 西澤真由美)

★滋賀のドクターヘリはカバーエリ

アが広がっています。多くの人が筒井さんのフライトを待っています。
(本部広報室 山内 敦)

運動はすばらしい

明和グループには、マラソン・ウォーキング部があります。コロナ禍で活動を控えていましたが、12月18日に三重県で唯一のフルマラソン・



みえ松阪マラソン2022が開催され、3人が出場しました。

実は、私にとって人生初のフルマラソン。緊張と不安の半面、楽しみな気持ちも感じながらスタート！途中のトンネル内にプロジェクションマッピングで、地元の幼稚園児の応援メッセージが流れてほっこりしたのも束の間、目の前のラン

次号予告

済生 No.1125 [令和5年3月号]

済生会の不易流行論 (174) 炭谷 茂

NEWSな済生人 特集 済生会学会・総会(横浜)

済生会交差点 この人 森田 想

口福につぼん (66) ピンク華麗 (鳥取市)

てづくりおもちゃ いまいみさ

広告索引

三井住友銀行 表紙見返し [表紙 2]

アクサ生命保険(株) 富国生命保険(相) 日本生命保険(相) 第一生命保険(株) 大樹生命保険(株) 明治安田生命保険(相) 裏表紙 [表紙 4]



えっ...?
 買い物好きの
 あの子まで.....



ライフプランニング 体験会

WHAT'S LIFE PLANNING?
 あなたの人生にこれから必要となるお金と、そのお金をどのように準備すればいいかを専門家(FP)のアドバイスをもとにまとめ上げるものです。あなたの夢を実現するためのプランを一緒に作りましょう!

お申込みは
 こちらから

もしかして...
 ノープランなの、
 あたしだけ!?

済生会の職員なら
**誰でも
 申込OK!**

え、AEDを装着し脈の確認を行ないました。脈は、触れるか触れないか分からないほどで、すぐに胸骨圧迫を開始(電気ショックは不要であったため胸骨圧迫を継続)。しばらくすると自発呼吸が見られ、救急車が到着して病院へ搬送されました。救急隊に引き継いだ後、手が震えていました。それほど緊張していたのですが、普段病棟で学び実践していることを生かした出来事でした。
 (群馬・前橋病院 看護部 新井真澄)
 ★その人が、今まで通り生きていくか否かの分水嶺。助けてあげられる知識と技術は、素晴らしいです。
 (デザイン担当 OVO 清水美弥子)



無料で受けられる「ライフプランニング体験会」受付中です！写真は左から平井滋厚生課長、杉浦さん、筆者

しかし今は銀行振り込み...。切り替わった頃だったか、通帳を記載した妻から「この配当金って何？いつから？」と聞かれたことがありました(汗)。どうやってその場を切り抜けたのか、全く覚えていませんが、頭が真っ白になったことだけは記憶しています。
 ちなみに、この死亡保険は加入者が多いほど配当金も増えることがあるとのこと。皆さん、「済生会グループ保険」お勧めですよ！
 (本部広報室 河内淳史)
 ★何度目かのアニサキスとは！そんなまさかの備えにスケールメリットを生かしたグループ保険、皆さんもいかがでしょうか。
 (本部厚生課 杉浦智子)



済生会
 明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。

以来今日まで111年、社会経済情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。
 戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

総裁	秋篠宮皇嗣殿下
会長	潮合義子
理事長	炭谷 茂
本部	東京 支部
病院	81
診療所	19
介護医療院	1
介護老人保健施設	29
救護施設	1
児童福祉施設	25
老人福祉施設	122
障害者福祉施設	9
看護師養成施設	7
訪問看護ステーション	63
地域包括支援センター	31
地域生活定着支援センター	5
その他	10
合計	403 (数字は令和3年度)

さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の59島の診療活動に携わっている。
 職員数は全国で約6万4000人。

済生 [令和5年2月号]
 THE NEWSLETTER of
 Social Welfare Organization
 Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.
 令和5年2月10日発行
 通巻第1124号 (第99巻第2号)
 編集兼発行人 炭谷 茂
 発行所 社会福祉法人財団法人済生会
 〒108-0073
 東京都港区三田 1-4-28
 三田国際ビルディング21階
 TEL: 03-3454-3311 (代)
 FAX: 03-3454-5576
 印刷所 株式会社白橋
 東京都中央区八丁堀 4-4-1
 © 社会福祉法人財団法人済生会

済生会グループ保険のご案内

スケールメリットを活かした、
個人保険に比べて
割安な保険料で
大きな死亡保障を!!

グループ保険

〔災害割増特約・こども特約・
こども災害割増特約付福祉団体定期保険〕

(本人・配偶者・こども対象)

診査がなく(告知のみ)
手続きが簡単なうえ、
剰余金があれば
契約者配当金が戻ります。



① 終身医療保障プラン

〔手術給付特約・手術補完給付特約・
先進医療給付特約(12)・死亡保険金不担
保持約(入院保障保険(終身型 09)用)付
入院保障保険(終身型 09) 60日型〕

② 総合医療あんしんプラン

〔総合医療保険(団体型)〕

(本人・配偶者・こども対象)

2つの保険より、
選択できます。



第二の人生を
充実させるために
今からご準備を!!

ゆうゆうライフプラン

〔拠出型企業年金保険、
医療給付金付個人定期保険〕

(本人のみ対象)



済生会グループ保険の次回新人募集は、
令和5年3月下旬にご案内予定です。



※このご案内は商品の概要を説明しています。ご契約の際には、「パンフレット」「重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)」を必ずご覧ください。

〔グループ保険・ゆうゆうライフプラン引受保険会社〕

アクサ生命保険株式会社 [事務幹事会社]
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社 富国生命保険相互会社
第一生命保険株式会社 大樹生命保険株式会社
明治安田生命保険相互会社

〔医療保険引受保険会社〕

アクサ生命保険株式会社 (終身医療保障プラン)
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社(総合医療あんしんプラン)
法人サービスセンター
電話 0120-563-925
【受付時間 月曜日～金曜日9:00～17:00(祝日・12/31～1/3はお取り扱いしておりません)】

〔グループ保険・ゆうゆうライフプラン・終身医療保障プラン お問合せ先〕

アクサ生命保険株式会社 制度推進部
〔照会先〕法人ビジネス業務部
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7450

〔総合医療あんしんプラン担当営業部〕

日本生命保険相互会社 公務第一部
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-1-1 電話 03(5533)5086